

留学の手引き 2020

Study Abroad Guide

学習院大学 国際センター
International Centre, Gakushuin University

Central Building, 1-5-1 Mejiro, Toshima-ku, Tokyo 171-8588 JAPAN
Tel : +81-3-5992-1024 Fax : +81-3-5992-1025 E-mail : guic-off@gakushuin.ac.jp
URL : <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/global/>

Opening hours : Mon to Fri 8:40 - 16:45 / Sat 8:40 - 12:30

はじめに

留学を希望される皆さんへ

学習院大学では現在、世界の63の大学と大学間協定を結び、そのうち半数以上の大学に、毎年、学生を1年間または半年間派遣しています。この協定留学では、留学期間を在学年数に算入することができます。また、留学先で修得した単位を一定の条件の下で本学の単位に認定することも可能です。しかし、留学をするためには、語学力をあらかじめ磨いておく必要があります、受け入れ大学によっては、英語では TOEFL iBT® や IELTS™ において一定の得点が必要になります。これらの条件を満たすのは必ずしも容易なことではありませんが、本学では、外国語教育研究センターがさまざまな充実した授業を展開しています。また、自分でインターネットを用いて語学力を磨くのもよいでしょう。留学するためには、最低限の語学力を必要とするのは言うまでもありません。しかし、英語等の外国語に加えて、君たち一人一人が選んだ専門の力を磨く事も、大学生の本分として重要です。英語はあくまでも手段であり、最終的な目標ではありません。実際に留学するためには、語学力を磨くこと以外にも、様々な準備が必要です。留学が決まったら、多くの書類を作成する事も必要になります。この「留学の手引き」には、皆さんが留学に向けての必要な事項が書かれています。また、国際センターでは、経験の豊かなスタッフが皆さんの相談にのり、留学のお手伝いをします。留学を決めている人だけでなく、留学に関心を持っている人は、是非この「留学の手引き」を読み、気軽に国際センターを訪れてみてください。

最後になりますが、わたしは留学を介してぜひ「世界は広く、そして狭い」ことを体感してほしいと願います。

「世界は広い」とは、わたしたち一人一人が東京での日々の生活のなかで、知らず知らずのうちに慣習に囚われてしまっていることの逆説です。一步日本を出ればその慣習ひとつひとつに意味があるか否かを自ら判断でき、自分の置かれた環境を理解する上で主観から客観への移行を促す大きなきっかけになります。一方で「世界は狭い」とは、どんなに遠方の地に行っても自分と同じ志をもつ人間と出会うことは、想像するよりも容易いということです。地球の裏側で自分と同じ情熱を持つ同世代の人間と邂逅する経験は、これからの人生においておおきな励ましとなることでしょう。広くて狭い世界の若き一員として戻ってきた時、目白の杜の緑は少し違った色に見えるかもしれません。



国際センター所長・
理学部数学科教授
山田 澄生

INDEX

I 「留学しよう」と思ったら	1
II 留学のタイプ	
1. 1年間など長期の留学	2
1) 協定留学プログラム	3
協定留学のメリット/派遣学生の募集/派遣学生の選考方法等/派遣学生を目指す皆さんへ/ 令和元(2020)年度協定留学プログラム派遣先大学一覧/協定校/協定校所在地	
2) 学部間協定等での協定留学	8
3) 協定外留学	8
協定外留学について/協定外留学の手続きについて/協定外留学のメリット	
4) 留学レポート(長期)・(長期・協定外)	9
2. 外国語学校等への留学	13
語学留学の心構え/外国語学校の選択/語学留学タイムテーブル	
3. 短期語学研修	15
旅行会社等が企画するバックツアー型/留学斡旋業者等によるオーダーメイド型/自分ですべて計画型/ 学習院大学主催プログラムへの参加/留学レポート(短期)	
III 留学の準備	
1. 学内の手続き	18
学部学生の留学に関する内規/各学部・研究科の「留学」認定基準/「留学」の場合の手続き/ 「休学」の場合の手続き/学内手続き(「留学」・「休学」)、留学と資格取得・キャリアに関するQ&A/ 協定留学プログラムによる留学経験者の就職活動体験記	
2. タイムテーブル	25
IV 奨学金	
1. 学内の奨学金	27
学習院大学海外留学奨学金/学習院大学海外短期研修奨学金/学習院大学北米等英語圏への 留学促進奨励金/学習院大学語学能力試験受験の助成/大学院学生の国外における研究発表援助	
2. 学外の奨学金	28
公費奨学金/官民協働奨学金/民間団体奨学金/留学先大学や国による奨学金	
V 語学能力テスト	
1. テストの概要	29
英語/フランス語/ドイツ語/イタリア語/中国語/韓国語	
2. テスト対策	30
TOEFL iBT®・IELTS™ 受験対策支援/外国語教育研究センターの活用/学部独自の英語対策講座/ チャットルームへの参加/さくらアカデミーの語学関連講座/学習院霞会館イングリッシュ・セミナー	
VI 留学情報提供機関	
1. 国際センター	31
2. 学外の機関	31
1) 留学に関する総合情報	
2) 国別留学情報	32
3. その他	32
1) 外務省「海外安全ホームページ」	
2) 外務省「各国・地域情勢」	
3) 厚生労働省検疫所「海外旅行者のための感染症情報」	
VII 渡航後の注意	
1. 外務省による渡航登録サービス	33
1) 在留届	
2) たびレジ	
2. 安全対策	33
VIII 帰国後のブラッシュアップ	34
IX 直近5カ年の留学者数	35
学部・研究科別留学者数/国別留学者数/渡航先国別「海外短期語学研修奨学金」受給者数	

I 「留学しよう」と思ったら

海外留学が十分な成果を上げられるかどうかは、事前の計画や準備の質にかかっています。漠然とした憧れから更に一歩進み、具体的な目標のある留学を目指しましょう。

留学を「希望」してから「実現」するまでの間に、少なくとも以下の点について、自分自身でよく考え、十分に情報を収集し、適切な判断・選択を行うことが重要です。

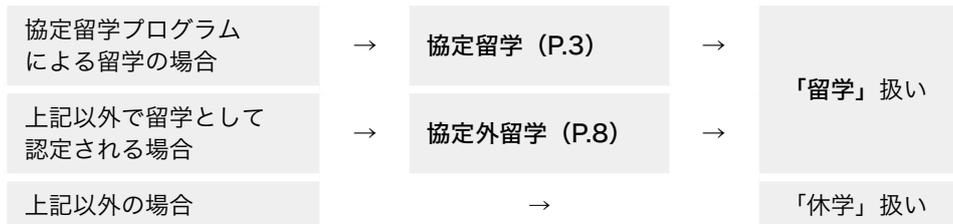
留学の動機・目的は何か？	何のために留学し、そこで何を学び、留学後それをどう生かしたいのか、人生の長期計画をしっかりと立て、その将来計画の中での留学目的を明確にしましょう。
留学の準備は万全か？	留学の目的が達成できるよう、最新の情報を徹底的に収集し、十分検討した上で、留学の内容（留学先・留学期間・留学時期等）を決定しましょう。
語学力・学力は十分か？	語学を学ぶための留学の場合は別として、学習・生活のための語学力は、留学の必要最低条件です。また、一般的な学力はもちろん、留学先での専攻分野に関しても、日本でしっかり知識を身につけておきましょう。
費用の準備は十分か？	留学の内容がある程度決まったら、おおよその留学費用を計算し、その準備方法について検討しましょう。留学生のアルバイトを禁止している国も多く、留学先で奨学金を得ることも困難です。経済的な事情から途中で留学を断念することがないように、資金計画をしっかりと立てましょう。
心身ともに健康であるか？	現地で心身ともに健康で過ごせるような準備（例えば、規則正しい生活、体力作り、孤独に耐えるメンタル面の強化）をしましょう。また、海外での医療費は高額になる場合があります。すべての病気やケガが保険の対象となるわけではなく、渡航前に病気等があれば、完治してから行きましょう。特に初めて親元を離れ、一人暮らしをする場合はしっかりと準備をしましょう。

II 留学のタイプ

一口に留学と言っても、その方法は様々です。海外の大学で専門分野を学んだり、外国語を身につけるために現地の語学学校に通ったり…。自分にとって最も適したタイプの留学はどういったものかよく考え、選択しましょう。

1. 1年間など長期の留学

1年間など長期の留学の場合、本学ではおおよそ次の3パターンに分かれ、学籍上、「留学」か「休学」で扱われます。



※すべて上記にあてはまるとは限りません。留学を考えている場合、下表を参考に事前に必ず関連部署に相談してください。

各パターンの違いについては、次のようになります。

	「留学」※1		「休学」
	協定留学	協定外留学	
	協定留学プログラムにより派遣される場合。協定校でもプログラム以外で留学する場合は協定外留学となる。	協定留学プログラム以外で、留学として認定される場合。各学部・研究科で認定基準が異なる。	左記以外の場合
留学の手続き	出願手続きは国際センターを通して行う。※2	すべて自分で行う。	
留学願・休学願提出窓口	学生センター教務課		
留学期間	1年間以内	原則として1年間以内。特別な理由がある場合には、さらに1年を限度として延長が可能。	3ヶ月以上1年以内。特別な理由により、さらに1年間（博士後期課程では2年間。ただし、1回の願出について1年以内とする。）の休学が可能。
在学年数との関係	留学期間は在学年数に算入する。		休学期間は在学年数に算入しない。
単位認定	所属学部の教授会で承認の上、学部学生 60 単位・大学院学生 10 単位まで認定可能。※3		不可
本学学費の減免	派遣先大学の学費が全額免除される場合は、留学期間中の本学の学費を全額納入する。	留学先の学費が発生する場合、留学・休学期間中の本学の授業料・施設設備費は、在籍料（平成 24 年度以前入学者は在籍料相当額）を除き、免除する。	

※1 国際社会科学部他、学部・研究科独自の留学に関する情報は、学部・研究科事務室に問い合わせること。

※2 「学部間協定」(P.8)に基づく留学は、各学部等が窓口となり、留学の手続きも各学部等を通して行う。

※3 単位認定を希望する学生は、学部によって認定基準が異なる場合があるため、渡航前に教務委員に確認すること。

具体的な手続きや、「留学」として認められるかどうかの基準については、「学内の手続き」(P.18～)をお読みください。

1) 協定留学プログラム

協定留学プログラムとは、本学が海外の大学と締結した協定をもとに、双方の学生を交換または派遣するプログラムです。このプログラムにより協定校へ派遣される場合は、前述の「協定留学」に該当します。

派遣先や派遣人数など内容は、毎年若干異なります。なお、協定校へは協定留学プログラム以外でも留学することもできますが、その場合は「協定外留学」となり、国際センターを通さずに個人で直接先方へ出願します。この場合は先方への出願前に国際センターに必ずご相談ください。

①協定留学のメリット

- ・本学の代表として派遣される。
- ・協定校は、本学が審議の上で協定を締結しているので一定の水準を満たしており、安心して留学ができる。
- ・派遣先大学への出願などは国際センターが窓口となるため、事務手続きの負担が減る。
- ・派遣先で修得した単位の認定を願い出ることができる。
- ・派遣先の多くで授業料が免除される。
- ・ほとんどの場合、現地の宿舎において、大学寮が斡旋される。
- ・学内奨学金である「学習院大学海外留学奨学金」(P.27)だけでなく、交換留学を対象とした学外の奨学金（日本学生支援機構（JASSO）の「海外留学支援制度（協定派遣）」等）に応募でき、奨学金を得るチャンスが広がる。
- ・先輩達の現地に密着した情報を得ることにより、留学に関する不安が緩和される。
- ・国際センターが行う学内の国際交流関係イベントへの参加を通して、留学生の友人がたくさんできる。
- ・原則として交換留学となっているため、派遣先大学において、本学への留学経験者や日本への留学を考える現地学生と友人になる機会が多い。

②派遣学生の募集

協定留学プログラムによる派遣学生の募集・選考は、下記のとおり、派遣先別に年2回行っています。募集要項の配布および説明会等については、国際センターのホームページや掲示、G-Port 等でお知らせしています。

	第1期	第2期
対象校	韓国、台湾、オセアニア等	アジア、欧州等
募集要項配布	5月頃	9月頃
出願締切	6月頃	10月頃
選考	7月頃	11月頃
留学期間（学籍上）	次年度の4月～翌3月	次年度の10月～翌9月

③派遣学生の選考方法等

派遣学生は、本学の代表として派遣するにふさわしい人物であることが求められます。派遣学生の選考方法と選考基準は、派遣先により多少異なりますが、おおむね次のとおりです。

- 選考方法 書類審査（第1次選考）、面接審査（第2次選考）
選考基準 留学計画、学業成績・語学能力、人物・国際性の観点から総合的に審査

毎年45～50名前後の学生がこのプログラムを利用して留学しています。応募倍率は年度によってかなり差がありますが、多い大学で約3～4倍、少ない場合で1～2倍程度です。

④派遣学生を目指す皆さんへ

イ. 語学力の向上に努める

協定留学を目指すのであれば、まずは、語学の学習を始めましょう。

協定留学は基本的には語学留学ではないので、相応の語学力を有していることが前提になります。応募時には、募集要項に記載されている語学力が必要になるので、TOEFL®、IELTS™ (P.29)などは計画的に受験し、高得点のスコア取得を目指しましょう。英語圏以外の大学についても、出願時に当該言語の履修証明書や語学能力試験証明書等(P.29～P.30)の提出が求められます。協定留学を目指す場合は、予め履修計画や試験日程を確認し、準備をしてください。

ロ. 語学以外の勉強もおろそかにしない

派遣学生選考の第1次審査は成績評価を含む書類審査なので、大学の授業をしっかり受けましょう。

また、協定留学の場合、留学先では自分の専門の学習が中心になるので、留学前にその分野の知識を十分に吸収しておくかどうかで、留学の成果が大きく変わります。

ハ. 留学の計画を綿密に立てる

協定留学の募集は年2回のみです。出願チャンスを逃さないよう、留学の計画をしっかり立てましょう。協定留学の場合、留学希望年度の前年度に応募する必要があります。

また、協定留学だからといって、4年間で卒業できることが保証されているわけではありません。応募時には所定の語学力を備えていることも必要です。したがって、早めの準備を始めることが留学実現への近道です。

ニ. 情報をしっかり集める

具体的な留学のイメージを描きましょう。協定留学の場合、国際センターで先輩達の「留学状況報告書」を閲覧できる他、6月と10月には「留学フェア」なども開催されるので、提供される情報は充実しています。

留学先についてしっかり調べ、自分の思い描く留学にぴったりの派遣先を選びましょう。

参 考

2020年度 協定留学プログラム派遣学生募集要項 (第1期・第2期)

※過年度の情報を参考に掲載します。今後の募集情報については国際センターに確認すること。

1. 出願資格

- ・心身ともに健康で、本学学生の代表として、所定の留学期間を全うできる者
- ・留学期間終了後本学に戻り、学業を継続する者又は本学の学位を取得する者
- ・派遣先大学の応募条件に見合う者
- ・保証人の同意が得られる者

2. 派遣先大学 ⇒ 次ページ⑤

3. 出願書類

- ・オンライン申請書
- ・G-Port 成績照会ページのプリントアウト
- ・推薦状 (様式自由)
- ・語学能力を証明する書類

4. 出願締切

第1期 2019年6月20日 (木)、第2期 2019年11月15日 (金)

5. 選考方法

- ・書類審査 (第1次選考)
結果発表: 第1期 2019年6月27日 (木)、第2期 2019年11月27日 (水)
- ・面接審査 (第2次選考 (日本語および派遣先の言語による面接))
面接日時: 第1期 2019年7月16日 (火)、第2期 2019年12月11日 (水)
選考基準: ①留学計画②学業成績・語学能力③人物・国際性の観点から総合的に審査

6. 結果発表

第2次選考の結果は、7月末日/12月末日までに個人宛にメール又は郵送により通知。

⑤ 令和2(2020)年度協定留学プログラム派遣先大学一覧

過年度情報の抜粋を参考に掲載します(詳細な募集要項等はG-Portに通年掲載中です)。

最新の募集情報については、必ず国際センターに確認してください。

参考：2020年度協定留学プログラム派遣先大学一覧

大学名(国名)	使用言語	語学力等	募集人数 ※1	応募人数 ※2	合格者数 ※3
第1期(留学期間(学籍簿上):2020.4-2021.3)又は第2期(留学期間(学籍簿上):2020.10-2021.9) ※4					
慶北大学校(韓国)	韓国語/英語	朝鮮語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.0、TOEFL iBT® 61、TOEFL ITP500等を取得している者	3/2	1/0	1/0
東国大学校(韓国)	韓国語/英語	朝鮮語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.0、TOEFL iBT® 61、TOEFL ITP500	2/1	1/0	1/0
高麗大学校(韓国)	韓国語/英語	TOPIK 2級を取得している者等又はIELTS™ 6.5、TOEFL iBT® 80、TOEFL ITP® 550 / GPA2.5	1/2	1/0	0/0
ソウル市立大学校(韓国)	韓国語/英語	朝鮮語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.0、TOEFL iBT® 61、TOEFL ITP500	1/1	1/0	0/0
仁荷大学校(韓国)	韓国語/英語	朝鮮語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.5、TOEFL iBT® 80、TOEIC 700、TOEFL PBT 507、TOEFL CBT 210	1/1	0/0	0/0
東呉大学(台湾)	中国語/英語	HSK3級又は中国語検定3級を取得している者等、中国語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.0、TOEFL iBT® 61、TOEFL ITP® 500等を取得している者	2/2	2/3	1/2
淡江大学(台湾)	中国語/英語	HSK3級又は中国語検定3級を取得している者等、中国語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.0、TOEFL iBT® 61、TOEFL ITP® 500等を取得している者 / GPA 2.5	2/2	3/2	2/2
国立中山大学(台湾)	中国語/英語	HSK3級又は中国語検定3級を取得している者等、中国語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.0、TOEFL iBT® 61、TOEFL ITP® 500等を取得している者	1/1	0/4	0/1
第1期(留学期間(学籍簿上):2020.4-2021.3)					
オーストラリア国立大学(オーストラリア)	英語	IELTS™ 6.5又はTOEFL iBT® 80 / GPA 3.0	3	9	3
ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)	英語	IELTS™ 6.5又はTOEFL iBT® 90 / GPA 3.0	3	6	2
マドック大学(オーストラリア)	英語	IELTS™ 5.5、TOEFL iBT® 68、TOEFL ITP® 520 / GPA 2.0	1	8	1
第2期(留学期間(学籍簿上):2020.10-2021.9)					
北京大学(中国)	中国語/英語	HSK 3級又は中国語検定3級を取得している者等、中国語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 6.0、TOEFL iBT® 90 / GPA2.5	2	2	1
復旦大学(中国)	中国語/英語	HSK 3級又は中国語検定3級を取得している者等、中国語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 6.0、TOEFL iBT® 80 / GPA3.0	2	1	1
北京外国語大学(中国)	中国語/英語	HSK 3級又は中国語検定3級を取得している者等、中国語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 6.0、TOEFL iBT® 80	2	1	0
香港中文大学(中国)	中国語/英語	HSK3級又は中国語検定3級を取得している者等又はIELTS™ 6.0、TOEFL iBT® 71、TOEFL ITP® 530等を取得している者 / GPA3.0	4	0	0
チュラロンコン大学(タイ)	タイ語/英語	基本的なタイ語の能力を有する者又はIELTS™ 6.0、TOEFL iBT® 79等を取得している者 / GPA 2.75	2	2	1
アサンブション大学(タイ)	英語	IELTS™ 6.5、TOEFL ITP® 500 / GPA 2.5	2	1	0
イーストアングリア大学(イギリス)	英語	IELTS™ (UKVI) 6.5 / GPA3.0	3	6	3
エディンバラ大学(イギリス)	英語	IELTS™(UKVI) 6.5 / GPA 3.0	2	7	2
オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)	英語	IELTS™(UKVI) 6.5 / GPA 2.8	3	9	3
ヨーク大学(イギリス)	英語	IELTS™(UKVI) 6.5 / GPA 3.0	2	1	0
アイスランド大学(アイスランド)	英語	IELTS™ 6.5 又は TOEFL iBT® 79	2	2	1
タルトゥ大学(エストニア)	英語	IELTS™ 5.5 又は TOEFL iBT® 75	2	3	2
オスロ大学(ノルウェー)	ノルウェー語/英語	基本的なノルウェー語の能力を有する者又はIELTS™ 5.0、TOEFL iBT® 60	1	8	1
マンハイム大学(ドイツ)	独語/英語	ドイツ語検定3級、ゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定A2、又はCEFR A2レベルの者等、ドイツ語R・C(中級)修了者等又はIELTS™ 5.5、TOEFL iBT® 72を取得している者	2	5	2
バイロイト大学(ドイツ)	独語/英語	ドイツ語検定3級、ゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定A2、又はCEFR A2レベルの者等、ドイツ語R・C(中級)修了者等又はIELTS™ 5.5、TOEFL iBT® 80を取得している者	2	2	1
ザルツブルク大学(オーストリア)	独語/英語	ドイツ語検定3級、ゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定A2、又はCEFR A2レベルの者等、ドイツ語R・C(中級)修了者等又はIELTS™ 5.5、TOEFL iBT® 72を取得している者	2	2	2
リヨン第二大学(フランス)	仏語	フランス語検定準2級又はDELTA A2の取得者等又はフランス語R・C(中級)修了者等	2	1	1
パリ第七大学(フランス)	仏語/英語	DELTA B2、DALF C1、DALF C2を取得している者又はIELTS™ 5.5、TOEFL iBT® 90を取得している者	2	1	0
パリ第十大学(フランス)	仏語	TCF B1を取得している者	2	1	1
リヨン政治学院(フランス)	仏語/英語	DELTA B1、TCF B1等を取得している者又はIELTS™ 6.0、TOEFL iBT® 80等を取得している者	2	4	2
ストラスブール大学(フランス)	フランス語/英語	DELTA B1、TCF B1等を取得している者又はIELTS™ 6.5、TOEFL iBT® 80を取得している者	2	1	1
パリ東大学クレティユ校(フランス)	英語	IELTS™ 6.0、TOEFL iBT® 80を取得している者	2	0	0
ポーリャ大学(イタリア)	イタリア語/英語	イタリア語検定4級又はCILS A2取得者等又はイタリア語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.5、TOEFL iBT® 72を取得している者	2	6	2
国立ナポリ東洋大学(イタリア)	イタリア語	イタリア語検定4級又はCILS A2取得者等又はイタリア語B・C(初級)修了者等	3	0	0
トリノ大学(イタリア)	イタリア語/英語	イタリア語検定4級又はCILS A2取得者等又はイタリア語B・C(初級)修了者等又はIELTS™ 5.5、TOEFL iBT® 61を取得している者	2	3	1

※1 〇の大学については半期の留学が可能者数の表記を第1期/第2期とする ※2 延べ人数 ※3 条件付き合格者を含む ※4 第1期、第2期について募集対象であったため、募集人数、応募人数、合格者数の表記を第1期/第2期とする

⑥協定校

本学では、現在、世界23カ国（地域）の63の機関と協定を締結しています。

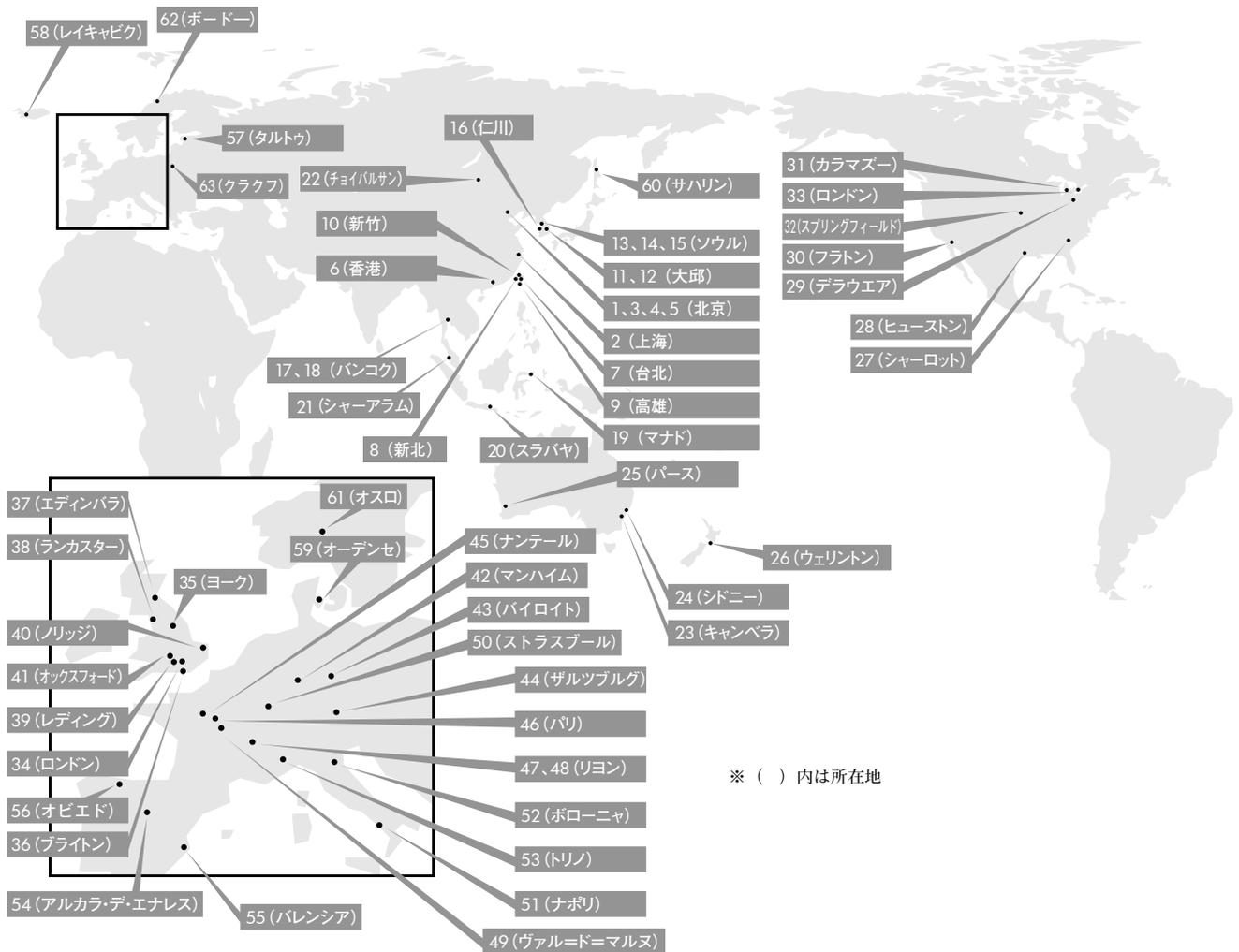
協定校（大学間）リスト（2020年3月31日現在）

※○は、2020年度協定留学プログラム募集対象校

地域		協定校名	派遣※	発効年月日
アジア	1	北京大学（中国）	○	1988.10.06
	2	復旦大学（中国）	○	1992.05.26
	3	北京外国語大学（中国）	○	2012.04.12
	4	清華大学（中国）	—	2012.10.10
	5	北京郵電大学（中国）	—	2014.03.31
	6	香港中文大学（中国）	○	2016.01.25
	7	東呉大学（台湾）	○	2012.12.12
	8	淡江大学（台湾）	○	2013.07.30
	9	国立中山大学（台湾）	○	2015.11.18
	10	国立交通大学（台湾）	—	2016.09.20
	11	啓明大学校（韓国）	○	2000.02.10
	12	慶北大学校（韓国）	○	2006.04.03
	13	東国大学校（韓国）	○	2012.08.14
	14	高麗大学校（韓国）	○	2014.11.24
	15	ソウル市立大学校（韓国）	○	2015.10.30
	16	仁荷大学校（韓国）	○	2019.03.20
	17	チュラロンコン大学（タイ）	○	1999.12.23
	18	アサンブション大学（タイ）	○	2013.12.04
	19	サムラトランギ大学（インドネシア）	—	2016.09.26
	20	アイルランガ大学（インドネシア）	—	2018.01.26
	21	マラ工科大学（マレーシア）	—	2020.02.12
	22	ドルノド大学（モンゴル）	—	2019.07.24
オセアニア	23	オーストラリア国立大学（オーストラリア）	○	2000.07.14
	24	ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）	○	2003.07.09
	25	マードック大学（オーストラリア）	○	2014.11.18
	26	ウェリントン・ヴィクトリア大学（ニュージーランド）	—	1998.07.31
北米	27	ノースカロライナ州立大学シャーロット校（アメリカ）	—	1992.03.30
	28	ライス大学（アメリカ）	—	1994.01.21
	29	オハイオ・ウエスレヤン大学（アメリカ）	—	2014.01.20
	30	カリフォルニア州立大学フラトン校（アメリカ）	—	2014.04.09
	31	ウェスタン・ミシガン大学（アメリカ）	—	2015.11.18
	32	ミズーリ州立大学（アメリカ）	—	2020.02.18
	33	ウェスタン・オンタリオ大学（カナダ）	—	2015.03.10
ヨーロッパ	34	ロンドン大学LSE（イギリス）	—	1981.11.24
	35	ヨーク大学（イギリス）	○	1991.04.16
	36	サセックス大学（イギリス）	—	1992.02.24
	37	エディンバラ大学（イギリス）	○	1992.03.23
	38	ランカスター大学（イギリス）	—	1992.05.05
	39	レディング大学（イギリス）	—	1992.05.07
	40	イーストアングリア大学（イギリス）	○	1997.03.13
	41	オックスフォード・ブルックス大学（イギリス）	○	2004.11.01
	42	マンハイム大学（ドイツ）	○	2000.06.16
	43	バイロイト大学（ドイツ）	○	2003.05.14
	44	ザルツブルク大学（オーストリア）	○	2015.11.04
	45	パリ第十大学（フランス）	○	2006.02.21

ヨーロッパ	46	パリ第七大学 (フランス)	○	2013.07.18
	47	リヨン第二大学 (フランス)	○	2007.03.12
	48	リヨン政治学院 (フランス)	○	2014.03.15
	49	パリ東大学クレティユ校 (フランス)	—	2017.09.11
	50	ストラスブール大学 (フランス)	○	2019.12.17
	51	国立ナポリ東洋大学 (イタリア)	○	1999.11.19
	52	ポローニャ大学 (イタリア)	○	2005.05.18
	53	トリノ大学 (イタリア)	○	2015.10.21
	54	アルカラ大学シスネロス校 (スペイン)	—	2012.05.10
	55	バレンシア大学 (スペイン)	—	2015.02.06
	56	オビエド大学 (スペイン)	—	2018.04.25
	57	タルトゥ大学 (エストニア)	○	2016.08.17
	58	アイスランド大学 (アイスランド)	○	2003.08.23
	59	南デンマーク大学 (デンマーク)	—	2017.08.16
	60	サハリン国立総合大学 (ロシア)	—	2017.12.29
	61	オスロ大学 (ノルウェー)	○	2019.11.26
	62	ノード大学 (ノルウェー)	—	2020.02.17
63	ヤギェウォ大学 (ポーランド)	—	2020.02.19	

⑦協定校所在地



2) 学部間協定等での協定留学

本学の各学部（研究科）が、海外の大学の学部等と締結した「学部間協定等」をもとに留学する場合も「協定留学」の扱いとなりますが、国際センターの協定留学プログラムとは異なり、各学部（研究科）等が窓口となります。

2019年度に募集のあった学部（研究科）と派遣先は以下のとおりです。

なお、詳細や今後の募集については当該部署にお問い合わせください。

大学院/学部	協定締結先
政治学研究科	カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ） グローバルリーダーシップインスティテュート メルボルン大学（オーストラリア） ディーキン大学（オーストラリア）* ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）* *上記2校はスタディ・アブロード・プログラム
人文科学研究科 アーカイブズ学専攻	明知大学校（韓国） 記録情報科学専門大学院 ベトナム国立大学ハノイ校（ベトナム） 人文社会科学大学アーカイブズ学・オフィスマネジメント学部

3) 協定外留学

①協定外留学について

本学の協定留学プログラムや学部間協定留学によらないで、学生が自分で留学したい海外の大学等を自由に選び、本学に「留学願」を申請して正規の承認手続きを経て留学する場合は「協定外留学」と呼んでいます。「留学」として認定されるかどうかの基準については、「学内の手続き」（P.18～）をお読みください。

大学等の選択や出願および入学手続きなどは、すべて自分で行うこととなりますが、留学先の選択の幅は広がります。国際センターには留学に関する様々な資料がそろっていますので、それらを利用して調べることも、またスタッフに相談することもできます。

②協定外留学の手続きについて

本学で「留学」の許可を受ける必要があります。留学することが決まったら、学生センター教務課で留学願の書式を入手し、所定の教員に確認の後、留学先の入学許可書と共に、学生センター教務課に「留学願」を提出してください。「留学願」は所属する学部（研究科）の教授会（研究科委員会）で審議され、承認されれば「留学」として認定されます。

詳細については、「『留学』の場合の手続き」（P.21）を参考にしてください。

③協定外留学のメリット

協定外留学のメリットは、何と言っても、選択の幅が広がり自分好みの留学を自分でアレンジできる点にあります。その他、「留学」扱いに伴う、下記のメリットがあります。

- ・留学期間は在学年数に算入されます。
- ・留学先で修得した単位については、教授会等の審議を経て、学部学生は60単位、大学院学生は10単位を限度として本学で修得したものとして認定される可能性があります。
- ・留学期間中の本大学における授業料・施設設備費は全額免除され、在籍料（平成24年度以前入学者は在籍料相当額）のみの納付となります。
- ・「学習院大学海外留学奨学金」（P.27）に申請することができます。

4) 留学レポート（長期）

2019年度協定留学プログラムによる派遣学生のレポートを紹介します。

*学生の所属、在籍年次は留学開始時のものです。

留学先：中国 北京大学
法学部法学科2年 田平 美来

留学先：韓国 慶北大学校
文学部英語英米文化学科2年 清水 亜美

1. 留学先大学を選んだ理由

第2外国語の中国語の先生がとても素敵で、いつか先生と中国語で話したいという夢が生まれたものの、発音やリスニング力の伸びの遅さに悩んだため、以前から決めていた海外留学の国を中国にしました。北京を選んだ理由は文化、教育、政治の中心である首都で、また北京大学という中国トップの大学で学びたいと思ったからです。

2. 留学先での学習状況

授業期間開始前に事前に自己申告したレベルを元にクラス分けが行われます。授業はスピーキングとリーディング、選択授業を週に計20コマ受講します。小テストやスピーチの頻度が多く、また授業内で教科書の文章を素早く暗記しなければならないこともあります。課題の量が多い分、わずか1週間でも成長を感じることができます。

3. 留学先での生活状況

授業が大体午前か午後のいずれかに集中しているため、自由時間は十分にあり、放課後はクラスメイトとカフェで勉強をしたり、自転車で気軽に隣駅に買い物に行ったりしています。また、バトミントンクラブに属しているためその練習もしています。休日は旅行に行ったり友人と食事に行ったりすることが多いです。寮はきれいで快適です。

4. 留学前の準備について

書類やパソコンでの手続きがとても多いので提出が遅れないように日々確認することが大切です。VISAも取得しなければならず、VISAセンターはかなり混雑しており時間もかかるため余裕を持って行くことをお勧めします。また中国語学習はもちろんのこと、英語も学習しておく先生や留学生との交流をスムーズに行うことができます。

5. 後輩へのメッセージ

留学中、日本にいれば友人に会えたのに、食事もおいしいのに、そう「タラレバ」を思うこともありますが、毎日新しいことを吸収し、毎日自分の成長を感じることができ、留学生たちとの交流で自分の視野を広げることができ、本当に来てよかったと思えます。是非、異国で自分のさらなる可能性を発見してみてください！



前から2列目左側が田平さん

1. 留学先大学を選んだ理由

英語力をもっと磨きたいと思っていたのですが、ほかにも韓国語にも興味があったので英語と韓国語を両方学べる慶北大学校を選びました。また、ソウルのように日本語がある程度通じってしまうと、それに甘えてしまうと思ったので、日本語があまり浸透していない大邱に行きたかったというのも理由の一つです。

2. 留学先での学習状況

英語力の向上が第一の目標なので、英語で開講されている授業を多く取りました。授業の内容は英語でのディスカッションやプレゼンテーションが主で、毎回の授業でたくさんの課題が出されます。最初は大変でしたが、他の学生と協力し合って乗り切っています。またクラスの半分は他の国の留学生なので授業内でいろいろな意見を聞けて楽しいです。

3. 留学先での生活状況

平日は韓国人の友達とカフェに行って授業の課題を終わらせたり、空きコマでご飯を食べたりしています。休日はルームメイトと市内に買い物、釜山やソウルなどに遊びに行ったりします。韓国人は仲良くなると自分の家に招待することが多いのか、私もよく友達の家泊まったりしています。また慶北大学校の学生が企画してくれたイベントに参加して、様々な国の留学生と旅行したりしています。

4. 留学前の準備について

私は本当に基本的な韓国語しかできないレベルで留学に来てしまい、もっと勉強してくるべきであったと思いました。なぜなら意外と英語が通じないところが多かったからです。入国管理局でさえ英語を本格的に話せる人がおらず、とても苦労しました。そのため最低でも手続きに必要な韓国語は勉強したほうが良いと思います。

5. 後輩へのメッセージ

よく、「留学をして人生が変わった」という話を聞くとありますが、それは本当だと思います。私自身、留学をして異なる文化や人に触れて、自分が持っている価値観はみんなが共有しているものではないのだと気づくことができました。この留学をきっかけに将来やりたいことを見つけ、今はそれに向かって勉強していることがとても楽しいです！不安なこともあるでしょうが、後悔しないためにも思い切って留学にチャレンジしましょう！



左端が清水さん

1. 留学先大学を選んだ理由

中学で初めてホームステイをしたのがオーストラリアで、留学をしたいと考え始めたきっかけとなった国でした。英語圏の中でも特に多国籍な国で、様々な文化や価値観に触れながら勉強するには最適な場所だと考えたからです。またホスピタリティーやツーリズムといった日本では勉強してこなかった学問分野を学びたいと考えており、この大学で専攻できると知ったからです。

2. 留学先での学習状況

日本と異なり少人数制の授業で、ディスカッションなど学生同士での意見交換が盛んでした。“意見を言わないことが恥ずかしい”という環境下でネイティブと同じレベルで思う存分授業を楽しむために、予習復習を欠かさず行っていました。課題などは友人と図書館で夜遅くまで一緒にしていました。日本とはまた違った視点から学ぶ授業はとても興味深く、この1年で好奇心を刺激されるような授業に沢山出会うことができました。

3. 留学先での生活状況

大学寮のイベントや交換留学生向けのイベントに参加したり、友人の車でロードトリップへ行ったりして余暇を楽しんでいました。多国籍なルームメイトと生活を共にすることで、文化の違いについて体感することができます。日本のスタンダードが世界のスタンダードではないということに何度も気づかされました。外国人の友人と外出したり勉強したりと目一杯楽しむことで、自然と英語力も身につけていきます。また後期からはツアーガイドとしてオーストラリアの企業で働き、海外で働くとはどういうことか学ぶことができました。世界中から来るお客様とのコミュニケーションの中で大学生活以外の交流を楽しむこともでき、将来の仕事について多くのヒントを得ることができました。

4. 留学前の準備について

VISAの手続きを早めに行う事はもちろんですが、私は現地で“日本の伝統文化や慣習の魅力を発信したい”という目標があったため、茶道や書道のお稽古をつける他、歌舞伎の鑑賞や和食を食べる機会を増やしたりと日本に触れる機会を増やしました。政治経済についても渡豪までにより知見をつけ、“日本を体現する者”として恥じのないよう準備をしました。

5. 後輩へのメッセージ

この留学での1年は自分の価値観を大きく変え、多くの刺激を受けて成長し、自立できるチャンスです。英語を上手に話すことよりも、沢山の友人をつくり、純粋にコミュニケーションを楽しんでみてください。またこの留学にあたってサポートしてくれている家族や友人、その他多くの人への感謝を忘れずに、悔いのない1年を過ごしてください。



中央が福岡さん

1. 留学先大学を選んだ理由

日本で知識を得たことによって浮かんだ自分の考えを他国の人々に伝え、他の考えも吸収できる柔軟性のある人間になりたいと思い、留学を決意しました。また、イーストアングリア大学が位置するノリッジは安全な都市として有名です。さらには、大学内にスーパー、寮があり、安心して大学内で生活できると考えこの大学を選択しました。

2. 留学先での学習状況

(履修)科目数は日本の大学に比べて少ないですが、授業内でのプレゼンテーション、エッセイの提出、予習・復習に日々追われています。特にグループプレゼンテーションでは自身の意見が求められるため、意見をメンバーに伝えるのに苦労しました。また、授業内でわからない内容は積極的に教授や友達に聞くようにしています。教授は皆とても親切にわからない点を教えてくれるため、そこまで困ったことはないです。

3. 留学先での生活状況

平日は基本的に図書館で勉強しています。放課後は所属しているサークルに参加するなど、活発にイベントに参加しています。休日は、基本的に大学からバスで約20分のところにあるCityCenterに行っています。そこには、マーケットがあったり、ショッピングを楽しんだりすることができます。この外出によってかなり気分転換ができます。また、大学が主催しているツアーにも時々参加しています。先日は、Sea tourに参加しました。

4. 留学前の準備について

Visaは緊張感を持って早めに取得しました。その他の大学の書類に関しては大学側が丁寧に対応して下さった為、特に不安なことはありませんでした。留学前の語学準備に関しては学校のホームページなどを見ることをモチベーションにして勉強に励みました。

5. 後輩へのメッセージ

もちろん言語の大きな壁にぶつかることが多々あります。しかし、その苦しみから逃げずに何度も挑戦することにより成長を実感することはとても楽しいです。1年間という限られた時間の中で様々なことに挑戦して新たな自分を見つけてほしいと思っています。留学をするということは勇気のいることですが、ぜひ留学して貴重な経験をしていただきたいです。



右端が小林さん

留学先：ドイツ マンハイム大学
文学部ドイツ語圏文化学科2年 結城 怜太

1. 留学先大学を選んだ理由

僕が留学先にマンハイム大学を選択した理由は大きく二つあります。一つはドイツ語能力の向上のため、もう一つは興味を持っている経済学の基礎をドイツ語で学ぶためです。マンハイム大学には数多くの留学生が居ること、更に経済学部はドイツでもトップレベルであること、これらの点もマンハイム大学を選ぶのに良い契機になりました。

2. 留学先での学習状況

上記にある通り、経済学部の授業はレベルが高く、使用言語もドイツ語なので予習復習は欠かせません。授業で使用されるスライドは事前にオンライン上で学生たちに配布されるので授業中はもちろん、予習復習の際にも非常に役に立っています。暇な時間には同じ寮に住んでいるカナダから来ている学生からフランス語を教してもらい、かわりに僕はドイツ語を教えています。

3. 留学先での生活状況

授業がない日や週末は、仲良くなったマンハイム大学の大学院生たちとボルダリングに行ったり、ポーカーをしたりして過ごしています。もちろん、ドイツ国内や周辺国の旅行も忘れていません。ルームメイトは4人中2人がドイツの学生なので、寮でもドイツ語が使える環境に居ることができてとても楽しいです。

4. 留学前の準備について

留学前は双方の大学への書類の提出などやるべき事が多くありますが、渡航後にもやらなければならない事が多くあります。特に渡航後には外国人局での手続きなど多少ドイツ語が求められる場面があります。事前に自分で調べるのは当たり前ですが、分からない事があれば、迷わずに留学で同じように煩雑な経験をした先輩に聞くのが吉です。語学の勉強もお忘れなく。

5. 後輩へのメッセージ

留学に際して色々心配なことがあるとは思いますが、何事も自分から行動しなくては始まりません！自分の知らない場所に身を置き、毎日刺激を受けることできっと大きく成長出来るはずです。多くの課題にぶつかり、苦労してください。苦労を乗り切った後のドイツビールは格別ですよ（笑）



最上段右から2番目が結城さん

留学先：フランス パリ第七大学
文学部フランス語圏文化学科3年 留盛 優歌

1. 留学先大学を選んだ理由

大学入学前からパリに留学することを目標にしていました。また、言語を習得することで、日本では学べないことを得たいと考え留学を決めました。パリ第七大学では、音楽・舞台芸術に関する授業など様々な分野の授業が開講されています。さらに大学の立地がとても良く、有名な歴史的建造物に簡単に行くことができます。

2. 留学先での学習状況

語学の授業と学部の専門科目の授業を履修しています。語学の授業は週2コマですが、少人数授業のため、発音など細かいところまで指導してもらうことができます。学部の授業はフランス人向けの授業のためとても難しいです。しかし、録音したりノートを見せてもらったりなどして授業に取り組んでいます。日本で習ったことをフランスの視点から学び、比較することができとても興味深いです。

3. 留学先での生活状況

勉強もちろんですが、フランスはルーブル美術館など国立の施設のほとんどがVISAを持っていると無料になるためよく足を運びます。また、毎週オペラ座などに観劇に行きます。さらに長期休暇には近隣国へ旅行に行きました。

パリ第七大学は毎週フランス人と日本人によるソワレ(交流会)があるため、フランス語を話す機会があります。そこでできた友人と遊びに行くなど積極的にフランス語を使う機会を増やしています。

4. 留学前の準備について

VISAの申請や提出書類など余裕を持って行ってください。また志望動機などフランス語で書かなくてはならない書類が多くあり、とても大変だったのを覚えています。

以前に留学していた先輩と連絡を取り、書類の書き方や気になる事について聞くことをお勧めします。

5. 後輩へのメッセージ

留学を決意する前も後も、たくさんの不安が出てきて悩むことがあると思います。そんな時には、留学先で自分はどんなことをするのか想像してみてください。きっとそれ以上に想像もできないくらい素晴らしい経験ができるはずです！

実際に私もパリに来てから、本場のオペラ・絵画など芸術に触れ、想像もできなかったような素敵な毎日を過ごしています。留学生活を通して、語学だけでなく様々な教養も身に付けることができます。少しでも興味があれば、思い切ってぜひ挑戦してほしいです！



左が留盛さん

5) 留学レポート（長期・協定外）

2019年度協定外留学による派遣学生のレポートを紹介します。

*学生の所属、在籍年次は留学開始時のものです。

留学先：米国 カリフォルニア州立大学ノースリッジ校
経済学部経営学科4年 玉城 智子

留学先：カナダ ILSC 語学学校
文学部フランス語圏文化学科3年 藤井 大希

1. 留学先大学を選んだ理由

ロサンゼルス郊外にある大学なので、空港、ダウンタウン等が近くにあるのに加えて、自然豊かな場所にもすぐ行けることが魅力的でした。また、州立大学ということで学費が比較的安く、授業のバラエティも豊富だったので、この大学を選びました。

2. 留学先での学習状況

勉強は平日、図書館でしていました。授業内でわからないことがあった時は、教授や、周りの友達に積極的に質問するように心がけました。また、現地の学生と話す機会を増やすために日本語クラスをとっている生徒と言語交換をしてアウトプットの時間を増やしました。そのおかげで、より楽しく英語を話すことができました。

3. 留学先での生活状況

私の場合、最初寮に住み、途中でホストファミリーに変更しました。寮は校内にあり、食堂もついていたので比較的安かつ自炊の手間が省けて便利でした。ホストファミリーと一緒に住んでからは、一緒に映画をみたり家事を手伝ったり週末出かけたりして、アウトプットの量が劇的に増えました。また、勉強と並行して校内にあるジムに通い、健康管理に気を付けていました。

4. 留学前の準備について

留学が決まると、その後の英語の勉強を疎かにしがちですが、日本でできること（単語、文法等）をできるうちにやっておくべきだと思いました。また、日本に関する基礎的な知識（日本文化や時事問題等）は外国人から質問されることがあるので、基礎的な知識を身につけておくと会話も広がると思います。

5. 後輩へのメッセージ

言語の壁や文化の違いに戸惑うこともあります。それ以上に日本との生活のギャップに新鮮さを感じる毎日でした。もし迷っているなら、挑戦する価値はあると思います。頑張ってください！！



玉城さん

1. 留学先大学を選んだ理由

私は自分の留学生生活を充実させられる環境が整っていると感じたのでこの学校を選びました。具体的には英語・フランス語の授業が受けられることや、学校主催の授業後アクティビティー、セッション毎のクラス替えがあることで常に外国人の友達とコミュニケーションを持てる場があるので言語の練習にはとても良い環境だと思います。そして授業は自分のレベル・ニーズに合わせて選択できるので、その点も魅力的に感じました。

2. 留学先での学習状況

「相手が何を言っているのかあまり理解できない」状態から、「言っている意味を完全には理解できなくても単語や文の発音が聞こえてくる」、まずはこの状態を目指して最初の数ヶ月間は取り組んでいました。学校には英語・フランス語のネイティブが大勢いるので自分から積極的にコミュニケーションを取り、単語や語彙の勉強と並行して、英仏会話や、耳が慣れる練習に取り組んでいます。ネイティブから色々教わるので興味を持って楽しみながら学んでいます。

3. 留学先での生活状況

カナダではありませんが、メトロやバスの放送、標識等は全てフランス語が用いられ、街中や学校内では英語とフランス語が飛び交うバイリンガルシティで生活しています。最初の2ヶ月間はホームステイでしたがその後に住む家は自分で探さなくてはならないので大変でした。平日の授業後はアクティビティーに参加したりカフェなどで宿題や復習をしています。休日は稀にアメリカやカナダの他の都市に旅行に行きます。友達と食事に行ったり一人で出かけることもあります。

4. 留学前の準備について

ビザ取得には必要書類が多く時間もかかるので余裕を持って進めることが大事だと思います。現地でのお金の管理の仕方や気候などの現地情報を事前に収集しておくとうれしいと思います。

5. 後輩へのメッセージ

留学先には日本とは異なる文化を持った国々から大勢の人が集まるので文化の違いに驚かされることが多々あります。日本では経験できないことなので少しでも興味があったり迷っているならば思い切って挑戦してください。学生のうちがチャンスです！



中央が藤井さん

2. 外国語学校等への留学（長期休業を利用した短期語学研修については P.15）

海外の大学の正規課程ではなく、語学を学ぶため外国語学校等へ留学することを一般的に「語学留学」と呼びます。留学先が学則第 41 条に定める高等教育機関にあたり、かつ各学科・専攻の定める留学基準を満たす場合、協定外留学として認められる可能性があります。協定外留学として認められない3ヶ月以上の語学留学の場合は休学の手続きが必要となります。

1) 語学留学の心構え

- ・語学留学により、飛躍的に語学力が上達するとは限りません。現地での学習効果をあげるためにも、渡航前から継続的に語学の学習に努めましょう。
- ・外国語学校での授業は、形や方法は変わっても、語学の学習であることに変わりはなく、単調になりがちです。意欲的に学習を継続するためにも、ぜひ具体的な目標を設定してください。
- ・外国語学校へ留学した場合、クラスメートはその国以外の出身者であることは言うまでもありません。また、近年の留学志向を反映し、クラスの大半を日本人を含めたアジア系の留学生が占める場合も珍しいことはありません。しかし、時間とお金をかけて留学するのですから、強い意志と努力をもって語学学習に臨む姿勢を維持してください。

2) 外国語学校の選択

語学留学を斡旋する業者に相談し、その業者の持つリストから学校を選ぶのが多く見られるケースですが、自分で行きたい地域の行きたい学校のホームページなどを参考に、自分で手続きを進めることも不可能ではありません。いずれにせよ、自分が主体となり、自分の目的に合った学校を選ぶ、という姿勢が重要です。

なお、斡旋業者の経営破綻に関するニュースが近年増えています。自己責任となり、お金が返ってこない場合もあります。業者の選定は、確かな実績のある業者かどうか、また J-CROSS（留学サービス審査機構）の認証を受けている業者かどうかなどの観点から、慎重に行ってください。

※国際センターに置いてある資料は、あくまで参考であり、大学として推薦しているものではありません。

①コースの内容

例えば英語研修と一口に言っても、目的に応じていくつかのコースに分類されます。

一般英語コース	いわゆる英語によるコミュニケーション能力を身につけるための基本的なコース。私立の語学学校が主流。
進学準備コース	大学や大学院への正規入学のために必要な英語力の習得を中心に、授業で必要とされるアカデミックスキルなども身につけることを目的としたコース。大学付属の語学学校に多い。
試験対策コース	各種語学試験対策コース。ほとんどの場合、試験日に合わせたコース期間設定となっている。
語学プラスαコース	語学と、スポーツ・文化体験・観光など各種アクティビティとを組み合わせたコース。

②留学先国・地域

留学する国の選択は、自分の専攻や興味、また経済状況などを考慮に入れて選びます。進学準備としての語学研修を考えている人は、最終的に目標としている大学や大学院のある地域を選ぶとよいでしょう。

③認定制度

ほとんどの国では、留学生を受け入れるための政府や州への届出制度、または一定の基準を設けて監査を行う認定制度を設けています。これらの登録や認定を受けているかどうかは学校の選択基準となります。

また、入国に際してビザが必要な国では、学生ビザ取得の対象となる学校かどうかは必ず確認してください。

④入学条件

語学研修の場合は、入学条件として、語学能力が問われることはほとんどありません。定員内であれば、簡単な書類選考により、入学することができます。ただし、学校やコースによっては、一定の語学力が必要な場合、また、年齢制限がある場合もあります。

⑤授業について

外国語学校の授業時間数は、1週間に15～30時間位、期間も2,3週間から3,4ヶ月位と様々なので、自分の計画に合った授業時間数を決めましょう。

また、1年間の語学留学を考えた場合、同じ学校でいくつかのコースを取る方法と、何校かの学校を組み合わせる方法が考えられます。

クラスの人数も、5～20名程度で、学校によって異なります。

⑥費用

授業料や生活費は、コースの内容や時間数、国や地域、また個人の生活によっても違ってきます。授業時間数が多ければ授業料は高くなりますし、都心の学校へ通えば生活費もかかります。

入学条件に、学費や現地での生活費をまかなう資金があることの証明を求める学校もあり、経済的な点から留学計画を立てることも重要です。

⑦注意事項

留学先が学則第41条に定める高等教育機関にあたり、かつ各学科・専攻の定める留学基準を満たし、協定外留学と認められた場合、留学先で修得した単位が本学の単位として認定される場合があります。ただし、当該の高等教育機関の学修成果が、その後進学した大学の成績証明書で証明される場合に限りです。(例：ヨーク大学附属語学学校での修得した科目が、ヨーク大学が発行する成績証明書に記載される場合、等)

3) 語学留学タイムテーブル

外国語学校等への留学の場合、入学希望時期の約半年前には準備に取りかかりましょう。

ただし、定員が一杯になると願書の受付が締め切られることもあるので、早めの出願を心がけてください。

6ヶ月前	① 情報の収集・検討 ② 出願先の選択
3ヶ月前	③ 出願先の決定 ④ 出願 ⑤ 留学先の決定
2ヶ月前	⑥ 渡航準備

3. 短期語学研修

この頃では、短期語学研修（いわゆる「短期留学」）を選択する学生も増えてきています。夏休み等長期休業期間中に渡航できる点が魅力で、様々な活動に忙しく1年間など長期の留学に踏み切ることができない学生の人気を集め、毎年300名以上の学生が参加しています。また、長期留学の事前準備として参加する場合も多くなっています。

1) 旅行会社等が企画するバックツアー型

往復の航空券、語学学校、宿泊（ホームステイや学生寮）がセットになっており、添乗員が同行するプランもあります。出発日、帰国日、語学学校は予め決められています。手続きに時間をとられることもありません。

オススメ！
こんな人に

- ・海外旅行が初めて
- ・誰かと一緒にないと不安
- ・親が心配している
- ・語学が大の苦手

2) 留学斡旋業者等によるオーダーメイド型

滞在地やクラス規模、予算等の希望を伝え、希望に合った学校を探してもらう方法。業者に手数料を支払う必要がありますが、出発日や滞在期間が自由に決められるため、自分の都合に合わせて計画を立てることが可能。

オススメ！
こんな人に

- ・忙しくて準備時間が取れない
- ・出発日や滞在期間を自分で決めたい
- ・語学が苦手

3) 自分ですべて計画型

インターネット等で希望滞在国の大学や政府機関の情報をフル活用して、自分だけの語学研修プランを。

オススメ！
こんな人に

- ・時間に余裕がある
- ・フットワークが軽い
- ・語学にはそれなりに自信あり

4) 学習院大学主催プログラムへの参加

学内で各学科等が主催しているプログラムを利用することもできます。

以下は2019年度の一例です。

参加を検討する際には、当該年度の募集情報や実施予定を、掲示や各学科等の事務室で確認してください。

	主催	研修先	国
全学生対象のプログラム			
1	国際センター	復旦大学	中国
2		東呉大学	台湾
3		高麗大学校	韓国
4		フライブルク大学	ドイツ
5		フランシュ・コンテ大学	フランス
6		ヨーク大学	イギリス
7		タルトゥ大学	エストニア
8		プリティッシュヒルズ	福島※1
9		東国大学校	韓国
10		エディンバラ大学	イギリス
11		淡江大学	台湾
学部・学科学生対象のプログラム（他学部・学科学生を受け入れる研修も一部あり）※2			
12	英語英米文化学科	ダブリンシティ大学	アイルランド
13	政治学研究科	ホーソン英語学校（メルボルン大学提携校）	オーストラリア

※1 国内での英語研修

※2 上記の他に、ドイツ語圏文化学科では、協定校であるパイロイト大学、ライプツィヒ大学等での夏期ドイツ語講習会に参加する学生のサポートを行っています。

国際センター主催海外短期研修プログラム（語学研修）

国際センターでは、2019年度に、全学生を対象とする「短期語学研修プログラム」を以下のとおり実施し、また、2020年度にも実施の予定です。卒業までに一度は海外で学ぶ経験を持ちたいと考えている方はぜひ参加してください。この他、課題探究型のプログラムを多数展開しています。2020年度の募集に関する詳細は、掲示や、国際センターホームページ、「海外短期研修他プログラム2020年度版」を参照してください。

なお、プログラムの一部は、基礎教養科目「海外語学研修」での単位修得が可能です。

参考：2019年度実施内容					
研修名	研修校	募集人数	参加人数	研修期間	滞在方法
夏季英語研修	ヨーク大学 (イギリス・ヨーク)	30名	27名	2019年 8月2日～8月24日	ホームステイ
夏季英語研修	タルトゥ大学 (エストニア・タルトゥ)	10名	9名	2019年 8月18日～9月8日	ホームステイ
夏季英語研修	ブリティッシュヒルズ (日本国内・福島)	30名	19名	2019年 8月16日～18日	研修先 宿泊施設
夏季韓国語研修	東国大学校 (韓国・ソウル)	15名	4名	2019年 8月4日～17日	寮
春季英語研修	エディンバラ大学 (イギリス・エディンバラ)	15名	15名	2020年 2月2日～2月23日	ホームステイ
春季英語研修	ヨーク大学 (イギリス・ヨーク)	15名	26名	2020年 2月2日～2月23日	ホームステイ
春季中国語研修	淡江大学 (台湾・台北) *研修中止	15名	(6名)	2020年 3月8日～3月21日(参考)	寮

5) 留学レポート（短期） *学生の所属、在籍年次は留学開始時のものです。

文学部心理学科1年 松尾 侑佳（2019年度夏季語学研修（イギリス・ヨーク大学（夏季））参加者）

私が本研修に参加した理由は、主に英語への苦手意識の克服の第一歩として、そして純粋な海外への憧れからです。また、この研修の募集を見た時の私は欧米の文化への関心が湧き始めた時だったので、この語学研修はとてもいい機会だと思い、気が付いたら応募していました。

ヨーク大学は緑も多く、また都会過ぎず田舎過ぎない丁度良いところにあったので、毎日の通学がとても楽しかったのを覚えています。大学の授業ではイギリスの文化から発音、歴史などを中心に学びました。そしてプロジェクトという研修の最終発表では題材決めから街頭調査まで自分たちで考えて実践する、という貴重な経験を積むことも出来ました。ホームステイ先ではホストファミリーと様々な所へ行ったり、子供達やペットと遊んだり、またお隣さんのお家で映画を観たりと多くの交流が出来ました。渡英してすぐは難しかったのですが、段々自分の拙い英語でもちゃんと会話を楽しむことが出来るようになりました。

案外、3週間という期間は長いようでもありましたが、英語に対する意識はしっかり変わったと思います。本研修を通して得られた多くの経験や異文化に対する知識・理解は、自分の学科における勉強からこれからの生活まで、多くの部分で視野を広げてくれました。本場の英語を学びたい人や英国での生活やについて興味のある人に、是非お勧めしたい研修です。



中央が松尾さん

理学部数学科4年 広瀬 一樹（2019年度夏季語学研修（エストニア・タルトゥ大学）参加者）

私は海外に行くのが好きで、1年生の時もアルザス研修に参加しており、就活も終わり余裕ができたため参加しました。エストニアという国を選んだ理由は、自分では絶対に行かない国だと思ったのと、IT先進国として有名で以前から興味があり、実際に見てみたいと考えたためです。

英語研修とフィールドワークはとても充実していました。また、タリンとタルトゥの二都市でのホームステイであったため、それぞれ違った生活様式を体感することができました。それに加えオプションツアーでヘルシンキとリガに行くことができたことも、このプログラムの良いところであったと思います。私が海外に行くのが好きな理由は、それぞれ違った価値観に触れることができるからです。ソ連時代の名残があったり、それを知らない若い人たちは柔軟な考え方を持っていたり、ヘルシンキやリガはまた違った文化を持っていたり様々な価値観に触れることができとても有意義な経験でした。また、エストニアのIT戦略についても実際に見たり聞いたりすることが多く、参加した目的は果たすことができました。

このエストニア研修は北海道大学などと合同で行うプログラムで、本学以外の生徒とも交流があるのも魅力の一つであると思います。たくさんのお会いがあり、このプログラムでしか経験できないことも多いので、好奇心があった普段生活しているだけでは得ることができない刺激が欲しいと思う人はぜひ参加してみてください。



左端が広瀬さん

理学部化学科1年 滝澤 一優（2019年度夏季英語研修（福島・ブリティッシュヒルズ）参加者）

元々英語のスキルアップ・海外留学には興味があったのですが、「今の私の英語力で海外留学に行くのは難しいのではないだろうか。」という不安を抱えていました。そんな時に知ったのがこの研修で、「短期間に国内で英語力を磨ける」ということで、今の自分にピッタリだ、と思い参加を決めました。

ブリティッシュヒルズでは、先生やホテルの方と話すときは全て英語でした。特に授業の先生は皆ネイティブなので、自然と、英語だけで意思疎通を図ろうと意識します。いつも完璧な英語で話せるわけではありませんが、先生もスタッフも優しい人ばかりなので、笑顔で対応してくれました。日本国内にいながらも、各建物の作りこまれた内装や、夜の景観からは英国の雰囲気が十分に堪能できました。海外留学に関しては、英

語力に対する不安だけでなく、1人で行くことに対する不安もありました。しかし、今回の研修では、日本語で気軽に話せる仲間がいる環境で、英語力を向上させることに集中できました。研修後は、「これなら私も留学に行ってもなんとかやっていけそうだ。」という自信ができました。

この研修は、私と同じように将来留学を考えている人にとっては、質の高い授業や、たくさんのネイティブと会話する機会が、とても身になります。また、英語力に自信がない人であっても、すぐ横には助けてくれる仲間がいるので、特に気にすることなく参加できます。自由時間には、みんなでバスケットボールやバドミントンも楽しめるので、夏の良い思い出づくりにもなるかと思えます。



最前列左側が滝澤さん

経済学部経済学科2年 小林 穂美 (2019年度夏期韓国語研修(ソウル・東国大学校)参加者)

私が韓国語研修に参加した理由は、日本にいながら、韓国の音楽やドラマに触れるうちにわずかですが、韓国語を聞き取れるようになっていたので、実際現地ですぐ活用できるのか、体験してみたいと思ったからです。また、この研修のプログラムには韓国文化の体験もあり、旅行ではできない経験ができると思い参加させていただきました。

プログラムの主は、語学授業、文化体験やパディとの交流でした。授業はクラス分けされるので、自分に合った授業が受けられました。文化体験では、キムチ作りと韓服試着、漢江遊覧船、NANTA観覧、チャング体験の貴重な経験をしました。また、パディはとても親切で日本語もできるのでわからないことがあったときなど、気軽に質問できました。最初は何もかもが、初めての事で心配事が多かったです。生活するにあたり、覚えた言葉が通じることから心配で不安もありましたが、韓国の人は、とても親切でした。明洞や梨大などで買い物した時には、私の言葉を理解しようと真剣に聞いてくれました。日を増すごとにパディや他大学の友達もでき、とても楽しい韓国留学でした。

夏なので外は暑いですが、授業を受ける教室が寒い場合があるので薄い上着が1枚あると良いと思います。また、授業やテーマ講義の後の自由時間にいろいろな場所に行きたいと思っている人は、Wi-FiやSIMカードを事前に借りることをお勧めします。韓国人や韓国が好きで他大学の人もたくさん交流をもつことができ、良い経験になると思っています。



右から2番目上が小林さん

法学部法学科2年 若林 孝信 (2018年度春季英語研修(イギリス・エディンバラ大学)参加者)

兼ねてから大学在学中に海外の人々の空気や文化、考え方を留学を通じて直接肌で感じてみたいと考えており、特に、ハリポッターを好きな者としてエディンバラという土地に深い興味があったため、研修に参加しました。また、研修が大学の休みの時期である春休みに行われ、本来の学業に影響が出ないことで参加をより前向きに考えることができました。

エディンバラ市街自体が世界遺産で、多くの建物が歴史的建造物ということもあり、特に夜の市街は魅力的でした。授業では英会話力の向上を目的とした授業が多かった印象があります。大学の周りには様々な種類のお店や、観光スポットも多く、大学が終わったあと、仲間とよく様々な場所を巡ることができました。自分は3週間という長いようで短いこの研修期間をどれだけ充実させるかを徹底しました。後悔しなくなかったのですが、色々なところに行きましたが、その中で現地の人々と多く交流ができたのはとても面白い経験でした。また、研修を共にした仲間に出会えたことも大きな収穫です。今でも時々会う大切な仲間です。

研修を楽しむのに大事なことは、「恥じらいを捨てることと一人を恐れないこと」です。恥じらいを捨てるというのは、誰であれ積極的に話していくということ。果敢に話しかけましょう。また、海外では特に仲間が大事です。しかし、エディンバラも他の土地もそう簡単に行ける場所ではないです。もし自分が行きたい場所に行きたい人がいないなら、あえて一人で行きましょう。せっかくの研修です。色々挑戦してみてください!



手前が若林さん

文学部日本語日本文学科3年 時田 安由美 (2018年度春季英語研修(イギリス・ヨーク大学(春季))参加者)

研修に参加したきっかけは、長期休暇のある大学生のうちに、海外の生活文化に触れてみたいと思ったことと、英・米の英語の違いについての記事を書いたことがあり、実際に体験したいと思ったためです。渡航経験に乏しく、英会話についても不安はありましたが、ここで行かないと行く機会がないと思い、勢いで申し込みました。

ヨークは、小さな街の至る所に歴史的な建造物がある魅力的な街である一方で、交通網が発展しており、バスで気軽に出かけられます。治安が良く、地元の人たちもとても親切でした。ヨーク大学は解放感溢れるキャンパスで、現地の学生や留学生と交流できるカフェ等のスペースも充実している語学研修に適した環境です。ホームステイでは、美味しいヨークの郷土料理をはじめ、現地のリアルな食文化を体験できました。また、放課後のヨーク散策や休日の旅行も楽しかったのですが、授業自体も凝った内容で楽しかったです。課題の一環で行った街頭アンケートには冷や汗をかく場面もありましたが、研修仲間全員で苦労した良い思い出です。

参加者同士初対面でしたが、今ではとても良い仲間です。学部関係なく参加してほしいですし、語学が苦手な人ほど大学等のサポートのある研修がお勧めです。一度行ってみたいことで、海外に対する意識的な壁がなくなり、今後の活動域も広がったように思います。懐かしい街が海外にできる、旅行とはまた違った素敵な体験でした。



後列左端が時田さん

経済学部経営学科3年 稲村 友香 (2018年度春季中国語研修(台湾・淡江大学)参加者)

私は母に勧められたことをきっかけにこの研修に興味を持ちました。海外に行ったことが一度もなく中国語も学んだことはなかったのですが、初めての海外に台湾は日本と近いところがありびっくりだと感じ、期間も2週間なら挑戦してみようと思いこの研修に参加しました。

淡江大学ではレベル別のクラスで中国語を学びました。関西の学生や海外の学生とも混ざって同じクラスで学ぶので、徐々にコミュニケーションをとって仲良くなりました。お昼は学校近くの永康街で毎日楽しくいろいろな台湾グルメを楽しみ、勉強しながら観光もできてとても充実していました。日に日に中国語を覚えていき、週末や放課後に遊びに行くに使ってみようと思ったり、街中の中国語で書かれた看板を理解できるようになったり、淡江大学の生徒さんとしゃべる機会も多くあり、中国語を学ぶみんなの意識がどんどん高くなっていくという初めての感覚でした。心から楽しかったといえる素敵な思い出です。

私は淡江大学で関西の学生と仲良くなり、日本に帰ってからその子が東京に遊びに来ていたので一緒に観光をしました。中国語を学んで台湾も知ることができて、さらに新しい友人に出会って、普段の学生生活では絶対にできない経験ができました。海外に行ったことがない人や、短期で留学してみたい人、素敵な思い出を作りたいと考えている人にすごくおすすめのプログラムです。



最前列右から2番目が稲村さん

Ⅲ 留学の準備

1. 学内の手続き

※年度内中に変更が生じる可能性もあるため、「留学」や「休学」を申請する際には、必ず学生センター教務課窓口にご相談ください。

1) 学部学生の留学に関する内規

留学を希望する際には、必ず以下の内規を熟読の上、必要な手続きを進めてください。

第1条 学習院大学（以下「本学」という。）の学部学生が、学則第41条により留学する場合には、この内規に定めるところによる。

第2条 この内規にいう留学とは、教授会において、その願出が承認され、学長の許可を受けた場合をいう。

第3条 学籍上の留学の期間（以下「留学期間」という。）は、留学先大学における在学期間に応じて、次のとおり取り扱う。ただし、留学を希望する者が所属する学科において個別の判断を行った場合は、この限りでない。

一 留学先大学における在学期間が3か月以上6か月以内の場合は、留学期間を半年間とする。

二 留学先大学における在学期間が6か月を超えて、9か月未満の場合は、所属学科において留学期間を判断する。

三 留学先大学における在学期間が9か月以上1年以内の場合は、留学期間を1年間とする。

2 留学期間は、原則として1年間を限度とする。ただし、特別の事情があるときには、更に1年以内の延長を認める事がある。

3 留学期間は、在学年数に算入する。

第4条 留学の許可を受けた者が、外国の大学において修得した単位のうち、教授会が適当と認めた単位を学則第15条第1項第2号に定める単位数を限度として、本学において修得したのものと認定することができる。

2 修得単位の認定に関する基準は、別にこれを定める。

第5条 留学を希望する者は、留学先の適否及び履修科目等の適否について、所属学科の教員から指導を受けなければならない。

第6条 留学を希望する者は、別に定める必要書類を添えて留学願を提出し、許可を得なければならない。

2 渡航前に留学手続きが完了しない場合には、一旦休学願を提出して渡航することができるが、必要書類が揃った時点で留学願を提出し、許可を得なければならない。

この場合、遡って休学の期間あるいは、その一部を取消することができる。

第7条 留学の許可を受けた者については、留学期間中の本学における授業料、施設設備費及び研究実験費を減免する。

2 外国の大学との交流協定に基づく留学者で、その協定によって留学先大学の納付金が免除されるときは、前項にかかわらず本学の納付金を納付しなければならない。

第8条 留学した年度の第1学期及び留学を終えて帰国した年度の第2学期において修得した授業科目の単位は、それぞれの年度に修得したのとする。

第9条 留学した年度の第1学期に履修していた通年の授業科目については、留学前に継続履修願を提出し、留学を終えて帰国した年度の第2学期にその授業科目を継続して履修することが認められた場合、通年で履修したものとみなす。

第10条 第4条規定に基づき単位の認定を願い出る者は、留学した大学の成績証明書及び履修要覧を添えて、留学に伴う単位認定願を提出するものとする。

第11条 留学先大学で修得した単位の認定は、教授会が行う。

第12条 留学を終えて帰国した年度の第2学期に履修する授業科目の履修登録は、9月末までに終えるものとする。

第13条 留学及び単位認定に関する事務は、学生センター教務課が行う。

第14条 この内規の改正は、教務委員会の議を経て、各学部教授会の承認を得なければならない。

附 則

この内規は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

2) 各学部・研究科の「留学」認定基準

皆さんの選んだ形式の留学が、本学における学籍上の「留学」として認定されるかについては、学部・研究科ごとに認定基準を設けています。認定されなかった場合は、「休学」して渡航しなくてはなりません。

法学部 法学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外の大学（4年制の大学を指し、コミュニティ・カレッジなど、短期で卒業可能な教育機関は含まない。以下同じ。）における学部に入學を許可された者。 2. 海外の大学における学部に入學することが予定され、その準備のために、大学が指定し、または公的に認証された外国語学校に入學する者。
法学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外の大学・大学院における法学または政治学に関連する学部・専攻に入學を許可された者。 2. 海外の大学・大学院における法学または政治学に関連する学部・専攻に入學することが予定され、その準備のために大学・大学院が指定し、または公的に認証された外国語学校に入學する者。
法学部 政治学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外の大学（コミュニティ・カレッジ（短期大学）も含める。以下同じ。）の学部に入學を許可された者。 2. 海外の大学の学部に入學することが予定され、かつ、入學の条件を満たすために、当該大学が指定する外国語プログラム（大学附設の外国語学校または外国語センターが提供するプログラム、あるいは大学が指定する外部の提携外国語学校が提供するプログラムを指す。以下同じ。）、あるいは公的に認証された外国語学校に入學する者。 3. 海外の大学の学部に入學を許可された者で、当該大学に入學する前に、同大学を含む海外の大学が指定する外国語プログラム、あるいは公的に認証された外国語学校に任意で入學する者。 4. 原則として総計3ヶ月以上に及ぶ形で、海外の大学が指定する中長期の外国語プログラム、あるいは公的に認証された外国語学校が提供するプログラムに入學する者。ただし、プログラムの内容によっては認められない場合もあるので、必ず事前に政治学科の教務委員に確認すること。
政治学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外の大学（コミュニティ・カレッジ（短期大学）は含めない。以下同じ。）・大学院（ディプロマ・コースは含める。以下同じ。）における政治学に関連する学部・専攻に入學を許可された者。 2. 海外の大学・大学院における政治学に関連する学部・専攻に入學することが予定され、かつ、入學の条件を満たすために、当該大学・大学院が指定する外国語プログラム（大学・大学院附設の外国語学校または外国語センターが提供するプログラム、あるいは大学が指定する外部の提携外国語学校が提供するプログラムを指す。以下同じ。）、あるいは公的に認証された外国語学校に入學する者。 3. 海外の大学・大学院における政治学に関連する学部・専攻に入學を許可された者で、当該大学・大学院に入學する前に、同大学・大学院を含む海外の大学・大学院が指定する外国語プログラム、あるいは公的に認証された外国語学校に任意で入學する者。
経済学部 経済学研究科 経営学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外の大学・大学院における経済・経営関連の学部・専攻に入學を許可された者。 2. 海外の大学・大学院における経済・経営関連の学部・専攻に入學が予定され、その準備として大学・大学院が指定する外国語学校に入學する者。 3. 海外の大学・大学院が提供する中長期の外国語プログラムに参加する者。（経営学科学生に限る。内容によっては認めないこともある。）

文学部 人文科学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外の大学・大学院における文学部関連の学科・専攻への入学が認められた者。学部や専攻の名称、機構や制度は国によって多様であり、また、文学部の関連学問領域も広いことにかんがみ、直接文学部とその大学院にあたらぬ学部・専攻への入学許可の場合には、受け付けた上で個別判断する。 2. 海外の大学・大学院における入学が予定され、その準備として大学・大学院が指定する外国語学校、あるいは外国語クラスに入学する者。 3. 海外の大学が提供する中長期の語学プログラム、あるいは大学に付属する外国語学校に外国語の習得を目的に正規に参加または入学を認められた者。 4. 公的に認証された外国語学校であり、文学部教授会または人文科学研究科委員会において審議の上、大学で学ぶのと同等の教育を受けることが出来ると判断された学校に、正規に入学を認められた者（ベルリッツ等、私企業が経営する、日本にもあるような通学可能な外国語学校への入学は、留学とは認めない）。
理学部 自然科学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として、大学ないしは大学院で理学系・工学系の専門的な学問を学ぶ場合のみを留学と認める。そのような学習に先立って留学先が指定する機関で語学の研修をおこなう場合は、それも留学に含める。語学研修が主要目的の場合は留学と認めない。 2. 「専門的な学問を学ぶ」ことになるかどうかは、原則として、先方で取得しうる単位を理学部または自然科学研究科での単位として読み替えられるかどうかで判断する。（ただし、これは、留学をしたら単位取得が必須であるという意味ではなく、取得単位が自動的に読み替えられることを意味するものでもない。単位の読み替えの可否は、留学から戻ったあとに個別に判断する。） 3. 学生から留学の申請があったときは、各学科主任または各専攻主任が、必要に応じて教室会議の意見を聞き、理学部教授会または自然科学研究科委員会において審議の上、留学と認定するかどうかを個別に判断し決定する。
国際社会科学部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外の大学・大学院における社会科学関連の学部・専攻に入学を許可された者。 2. 1に定める学部・専攻への入学を許可された者で、この入学準備を目的として、入学する大学・大学院が提供する外国語プログラムに参加、または入学する大学・大学院の附属・提携する外国語学校に入学を許可された者。 3. 1に定める学部・専攻への条件付入学を許可された者で、この条件を満たすことを目的として、入学する大学・大学院が提供する外国語プログラムに参加、または入学する大学・大学院の附属・提携する外国語学校に入学を許可された者。 4. 外国語の修得を目的として、海外の大学が提供する外国語プログラムに参加、または海外の大学の附属する外国語学校に入学を許可された者。

【留学として認定する基準 パターン別】

①留学先が大学のみの場合

✓入学する学部・専攻は自分の所属する学部・専攻に関連する

法学部 法学科	法学研究科	法学部 政治学科	政治学研究科	経済学部 経済学科	経済学研究科	経済学部 経営学科	経営学研究科	文学部 全学科	人文科学研究科	理学部 全学科	自然科学研究科	国際社会科学部
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

②留学先が外国語学校（入学準備）→大学の場合

✓入学準備として、大学・大学院の指定する外国語学校に入学する

✓入学する学部・専攻は自分の所属する学部・専攻に関連する

法学部 法学科	法学研究科	法学部 政治学科	政治学研究科	経済学部 経済学科	経済学研究科	経済学部 経営学科	経営学研究科	文学部 全学科	人文科学研究科	理学部 全学科	自然科学研究科	国際社会科学部
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

以下のケースについては、留学先により、留学が許可されない場合もあるので、教務委員に相談すること。

③留学先が学則第41条に定める高等教育機関のみの場合

法学部 法学科	法学研究科	法学部 政治学科	政治学研究科	経済学部 経済学科	経済学研究科	経済学部 経営学科	経営学研究科	文学部 全学科	人文科学研究科	理学部 全学科	自然科学研究科	国際社会科学部
×	×	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○

④大学が提供する中長期の語学プログラムに参加する場合（学部・専攻への入学でない場合）

法学部 法学科	法学研究科	法学部 政治学科	政治学研究科	経済学部 経済学科	経済学研究科	経済学部 経営学科	経営学研究科	文学部 全学科	人文科学研究科	理学部 全学科	自然科学研究科	国際社会科学部
×	×	○	×	×	×	○	×	○	○	×	×	○

⑤留学先は大学であるが、入学する学部・専攻は自分の所属する学部・専攻に関連しないもの

法学部 法学科	法学研究科	法学部 政治学科	政治学研究科	経済学部 経済学科	経済学研究科	経済学部 経営学科	経営学研究科	文学部 全学科	人文科学研究科	理学部 全学科	自然科学研究科	国際社会科学部
○	×	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×

3) 「留学」の場合の手続き

時期	手続	手順	期限	
			10月渡航	4月渡航
留学前	入学許可書の入手	留学先の大学から文書（公文書）で入学許可書を入手する。 (留学手続き開始にあたり必須のため、早めに交付を受けること)	6月中旬 (目安)	1月中旬 (目安)
	留学願提出	1. 書式を学生センター教務課窓口にて入手する。 2. 必要事項を記入し、入学許可書を添えて指導教員へ持参。 ※別紙「留学願の指導教員一覧」を参照すること 留学願に押印を受ける。 3. 学生センター教務課へ書類一式等を用意し提出する。 (窓口持参品) ・留学願 ・入学許可書（原本、コピー）(*1) ・印鑑（訂正発生時に必要) (協定外留学の場合のみ) ・学校案内（パンフレット等) ※詳細は別途記載	6月末日	1月末日
		4. 学生センター教務課より、G-Portにて留学の許可通知を受け取る。	審議判定後、速やかに	
	継続履修願提出 (希望者のみ)	1. 書式を学生センター教務課窓口にて入手する。 2. 必要事項を記入し、教務委員から押印を受ける。 3. 授業担当教員から継続履修の了承を得る。(*2) 4. 学生センター教務課へ継続履修願を提出する。 (留学願と同時に提出すること)	6月末日	—
留学中	提出書類の入手	帰国後に単位認定の申請を希望する場合は、以下の書類を帰国前に入手しておく。 ・成績証明書（学校印が押印されているもの、原本を入手する）※ ・シラバス ・時間割 ・学年暦 ※学生センター教務課への提出後、書類は返却されません。 必要に応じて、書類は2通以上取得しておくことを推奨します。	—	
帰国後	必要書類受領	学生センター教務課へ留学終了の報告を行い、必要書類の受取や手続きについての説明を受ける。	帰国後すぐ	
	履修登録	第1学期からの復帰：4月の履修登録期間に登録 第2学期からの復帰：9月の履修登録修正期間に登録	9月下旬	4月中旬
	単位認定願提出 (希望者のみ)	1. 単位認定願をG-Portのキャビネットからダウンロード。 2. 書類に必要事項を記入し、成績証明書（原本）・シラバス・時間割・学年暦を添え、指導教員へ持参。押印を受ける。 3. 学生センター教務課へ書類一式を提出する。	新学期開始日より 3ヶ月以内	
		4. 会議で単位認定願が審議される。 5. 学生センター教務課にて審議結果を確認する。	—	
継続履修手続 (希望者のみ)	1. 申請書式を学生センター教務課窓口にて入手する。 2. 授業担当教員へ書類を持参し、継続履修の了承を得る(*2)。 3. 履修登録修正期間に該当科目を履修登録する。	学生センター教務課 より 帰国後に指示		

*1 入学許可書に在籍期間が記載されていない場合には、大学暦等、在籍期間が分かる書類をご提出ください。

*2 継続履修は授業担当教員の判断で許可されない場合がある。

4) 「休学」の場合の手続き

「留学」として認められない3ヶ月以上の海外渡航の場合は、所定の「休学願」を学生センター教務課に提出し、休学の許可を受ける必要があります。休学期間は在学年数に算入されず留年となるため、「休学」により渡航する場合は、4年間で卒業することはできません。

5) 学内手続き（「留学」・「休学」）、留学と資格取得・キャリアに関する Q & A

Questions	Answers									
留学期間は何年ですか？ また延長することができますか？	「留学」として許可される期間は、原則として1年間（4月1日～3月31日又は10月1日～9月30日）です。ただし、さらに1年に限り延長が可能です。その場合は、改めて留学願を提出してください。									
「留学願」の提出期限はいつですか？	10月からの留学の場合は6月末日、4月からの留学の場合は1月末日までに留学願を提出して下さい。留学先からの入学許可書の発行が間に合わない場合、学生センター教務課へご相談ください。									
継続履修とは何ですか？	<p>留学または休学期間が10月1日から翌年9月30日の場合に適用される制度です。履修中の通年科目について、留学開始年度の第1学期の授業を次年度の第2学期の授業に継続させ、1年間履修したものとみなしてもらうことが可能です。</p> <p>ただし、休講や時間割の変更、また担当者の交代などにより、願い出た科目全てが継続履修できるとは限らないことに留意してください。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">← 留学/休学 →</td> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第1学期</td> <td style="text-align: center;">第2学期</td> <td style="text-align: center;">第1学期</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">← 今年度 →</td> <td></td> <td style="text-align: center;">← 次年度 →</td> </tr> </table> <p>* 「A」と「B」を合わせて、通年の履修とする。</p>	A	← 留学/休学 →	B	第1学期	第2学期	第1学期	← 今年度 →		← 次年度 →
A	← 留学/休学 →	B								
第1学期	第2学期	第1学期								
← 今年度 →		← 次年度 →								
留学後、単位認定をしてもらうことはできますか？	<p>単位認定は、教授会で「留学」と認められた場合、つまり「協定留学」・「協定外留学」どちらの場合でも願い出ることができ、学部生は60単位、大学院学生は10単位を限度に認定される可能性があります。</p> <p>単位認定を願い出る科目については、原則として、留学先での修得科目と本学の該当授業科目との内容・学修時間が同等であることが条件となります。具体的な認定基準は学生センター教務課にて留学に伴う単位認定に関する内規を確認してください。</p> <p>申請後、所属学科・専攻の教授会・研究科委員会で、留学中の成績などを勘案して審議が行われるため、単位認定されるかどうかについては、留学後でなければわかりません。その点も含めて、余裕をもった履修計画を立てるようにしてください。</p>									
留学をしても4年間で卒業できますか？	<p>留学の期間は在学年数に算入されますので、規程上は留学しても4年間で卒業することが可能ですが、実際には所属する学部・学科や、留学前の修得単位数、留学時期、また就職活動などとの関係で、4年間で卒業できる場合もあれば、やむなく5年間かかってしまう場合もあります。4年間で卒業できるかどうかについては、できるだけ早い段階で、関連部署に相談してください。</p> <p>休学の場合は休学期間が在学年数に算入されず、4年間で卒業することはできません。</p>									

Questions	Answers
休学期間は何年ですか？ また延長することができますか？	休学期間は3ヵ月以上1年以内で、引き続き1年間の休学が可能です。ただし、学部の場合は、通算して4年を超えることはできません。
休学の場合も継続履修が認められますか？	留学の場合と同様に認められます。その場合は、休学願と同時に継続履修願を学生センター教務課に提出してください。
教職課程を履修しているのですが、留学できますか？	留学の時期によって4年間では教員免許状を取得できない場合もあります。早めに教職課程事務室（中央教育研究棟6階）に相談するようにしてください。
留学すると就職活動は不利になりますか？	留学では、通常の学生生活では得られない貴重な体験ができます。その貴重な経験をきちんとまとめてPRできれば、留学が就職活動に不利になることはありません。ただし、留学時期によっては就職活動時期にかかったり、単位取得を優先しなければならないケースもあると思います。留学前と帰国後にはキャリアセンター（西5号館4階）に相談し、どのような就職活動をしていけば良いか、計画を立てておくことが大切です。
留学時期と就職活動時期が重なってしまう場合、就職活動はどのように進めれば良いですか？	<p>キャリアセンターが主催しているセミナーには、低学年から参加できるものもありますので、留学前に参加することができます。留学中でも就職ナビサイト（例：マイナビ、リクナビ、キャリアス就活など）や気になる企業のホームページを見るなど、志望業界について調べることができます。さらに、世界各地で開催されるキャリアイベント（例：ポストンキャリアフォーラムなど）に参加することもできます。帰国後でも、日本で留学経験者向けの就職イベントが年に数回開催されますので、ぜひ積極的に参加してください。</p> <p>また留学中には現地の校友会など、社会人と接点を持って自分のキャリアを考えるきっかけにするのも良いでしょう。</p> <p>(参考サイト) CFN https://careerforum.net/ja/ マイナビ国際派就職 https://global.mynavi.jp/</p>
留学経験者向けの就職セミナーはありますか？	毎年実施しています。留学前でも留学後でもOKとしていますので、検討中の方はぜひ参加してください。開催日程はキャリアセンターからのG-Port「就職お知らせ」をご確認ください。 (参考) 令和元年度は7月と12月に実施。
過去に留学を経験した先輩の就職活動体験を聞きたいのですが。	留学経験者の体験談をまとめた資料は現在用意していませんが、『就職ガイドブック』には留学経験者のインタビューを掲載しています。またキャリアセンター資料室にある「就職活動報告書」等からピックアップすることができます。適当な先輩が見つからない場合はキャリアセンターにご相談ください（次ページに「留学経験者の就職活動体験記」を掲載しています）。
留学経験者の就職先には、どのようなところがありますか？	本当に様々ですが、留学で得た語学や異文化交流を活かしたいと考える場合、海外との取引のある商社、メーカー、コンサルティング、金融、サービス、旅行などの業界を選ぶ先輩が多いようです。税関などの公務員を選択する方もいらっしゃいます。

6) 協定留学プログラムによる留学経験者の就職活動体験記

*学生の所属、在籍年次は執筆当時のものです。

内定先：EY 新日本有限責任監査法人
(ドイツ・マンハイム大学へ協定留学)
経済学部経済学科4年 香内 章吾

留学期間は3年生の後期から4年生の前期までの一年間です。必要な語学スコアを満たすには時間がかかり、留学期間が就活と重なることになってしまいました。留学と就活のどちらも充実させたいと思い、卒業を一年延ばすことを決めた上で、協定留学を目指しました。したがって、留学前や留学中に就職活動の準備は行っていませんでした。計画通り、留学後から準備を始めました。帰国後すぐに、留学で得たものを活かすため、資格試験の勉強をしていました。また、就活が本格化した時期から、大学の就活講座には積極的に参加し、友達からは情報収集をしたりなど、通常通りの就職対策は怠らないようにしました。

卒業を延ばすと、基本的に一緒に就職活動をする友人はいません。不安や孤独さを感じることもあります。けれども、共に留学した友人や就職活動を終えた友人等は周りにいます。相談したりアドバイスをもらったりしていました。彼ら彼女らと協力すれば必ず乗り越えることができます。

ただ、私は卒業を延ばしたことは正解だと思っています。留学先の学習についていくには学習院大学で十分な基礎科目を学習していたからこそ本格的に専門科目を学習することが出来ました。また、就活のことを考えずに留学生活に打ち込めたので何にも縛られずのびのびと生活できました。そして、帰国後や就活の時期に自分がどんな仕事をしたいのかをじっくり考えることができました。

留学は自分の視野を広げる絶好の機会です。留学中は今までに味わったことのないような楽しいことやつらいことを経験します。こうしたことを経験することで、今までとは違った考え方や価値観を得ることができました。留学をすることによってこそ得られる新しい自分に出会うことが出来ると思います。

留学には、貴重な大学生活の一年を割き、場合によっては留年しなければならない、と考えると不安に感じるかもしれません。けれども、そのようなことが気にならないぐらい“やってよかった”と思えるような一年にすることは十分可能です。思い切ってチャレンジする価値はきっとあります。



左端が香内さん

内定先：株式会社エヌ・ティ・ティ・データ (NTT データ)
(台湾・国立中山大学へ協定留学)
法学部政治学科4年 岩澤 諒

私は大学3年次に交換留学を経験しました。3年生と言うと、多くの学生がインターンを経験し、また企業説明会やOB訪問など就活への動きが本格化する時期です。私は一年間の留学ののち、留年せず合計4年間での卒業を見込んでいたため、留学前から就活の準備は進めていました。具体的には、周りが1学年上の中でのインターンへの参加やOB訪問、また企業説明会への参加です。

留学中は、地理的な制限で就活においてディスアドバンテージがあります。インターンや説明会には参加できません。しかしながらOB訪問はできます。現地での学習と留学生活を謳歌することを第一にした上で、志望企業の人事部に連絡をし、SkypeやメールでのOB訪問を行っていました。

私の帰国は2月の末でした。3月にエントリーシートが締切の会社が出てくる中で自己分析や企業研究、ES提出に割く時間は十分ではありません。さらに帰国直前は最後の留学生活を楽しみながら大学の期末テストに追われるなど就活に時間をかける余裕もありません。そこで私は、帰国前のタームは留学に全力投球し、帰国後から全力の就活を始めました。短い期間に濃く集中することで、どちらも中途半端にせず、しっかりと結果が出せたのではないかと思います。

留学を経て以前より、自分の心の余裕と自信が生まれました。また、海外での奮闘経験は、自分を見つめ直す時間、また成長と新しい自分を見つける機会に溢れています。だからこそ、就活においても自己分析にかけられる時間が短いもので済み、面接も堂々と臨めたのではないのでしょうか。

3年生での長期留学かつ帰国後留年せず卒業することは、一般的には大変だと思われています。実際は思っているほど困難ではありません。これほど密度の濃く充実した学生生活と、自己成長の機会には他にないと思います。限られた時間の中で自らを追い込むことでより一層の成長が見込めると私は考えているからです。

毎日が新しい発見に満ち、日々自身の成長を実感しながら過ごせる『留学』に是非みなさんも挑戦してみてください！



前列中央が岩澤さん

2. タイムテーブル

大学への留学の場合、一般的には、準備を始めてから実際に渡航するまで、少なくとも1年半以上の準備期間が必要だと言われています。早めに準備を開始することが、成功する留学への第一歩です。

1 年半前

	一般的な留学の流れ	特に協定留学の場合 (2021 年度留学予定者向け)
1)	<p>情報の収集・検討 留学の準備は、留学に関する様々な情報を集めることから始まります。まずは、自分の留学の目的や希望にそって、幅広い情報を収集しましょう。</p> <p>情報の収集方法は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 志望大学、留学情報雑誌や留学関係のホームページやパンフレットを参考にする。 ・ 各国の公的機関（在日大使館や教育機関）を利用する。 ・ 留学フェアなどに参加する。 <p>どんな情報を収集したらよいか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の種類（大学 or 外国語学校、公 or 私立等）と修業年限について ・ 取得できる学位や資格について ・ 認定された学校であるかどうかについて ・ 宿舍について ・ 入学資格や出願方法について ・ 学費や奨学金について ・ 外国人の受入体制や大学周辺の治安状況について ・ 現地の医療事情について <p>指導教授・家族・友人などへの周知 自分が留学を考えていることや、留学が決まった場合、どこの国へどのくらいの期間渡航する予定であるか等、身の回りの人には早めに話を始め、了解をとっておきましょう。</p>	<p>国際センター主催の「留学フェア」（6月および10月）等へ参加（協定以外でも、留学に興味のある方はどなたでも参加してください）</p> <p>「留学状況報告書」（P.4）の閲覧</p>
2)	<p>語学能力テスト等の受験開始 大学等への留学の場合、通常出願時に TOEFL[®] 等、語学試験のスコアの提出が求められます。1度の受験で十分な得点が得られるとは限らないので、早めに受験を開始し、何度か受験し、納得できるスコアを取得しましょう。</p>	
3)	<p>出願先の決定 集めた資料を検討し、出願先を優先順位をつけて選択します。 可能であれば、出願先の大学が主催する短期語学研修等に、長期休業を利用して参加することも、選択の一助になります。</p> <p>大学を選ぶポイントは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のやりたいことが学べるかどうか？ ・ 興味があったり、好きな国であるか？ ・ 自分の計画通りの期間、留学ができるかどうか？ ・ 大学の規模や環境はどうか？ ・ 学費は予算内かどうか？ 	

↓ 1年前

	出願 選考は、一般的に書類審査で行われるため、出願書類は慎重に準備することが重要です。また、選考は複数回行われることがあります。早めの出願が有利です。出願書類はすべてコピーを取り、送付日を記録しておくこと。	① 5月② 10月 ・協定留学プログラム募集要項配布 ・留学説明会参加
4)	出願書類にはどんなものがあるか？ ・願書（自己PRを心がけて作成のこと） ・成績証明書、在学証明書 ・推薦状 ・財政能力証明書（銀行や郵便局で入手） ・テストスコア（TOEFL®、IELTS™等） ・同意書（家族等の了解は必ず得るようにしましょう）	① 6月② 11月 ・協定留学プログラム出願 ・書類選考 ※① = 第1期、② = 第2期

↓ 6ヶ月前

5)	留学先の決定 通常、出願から約1～3ヶ月後に結果が通知されます。留学する大学が決まったら、留学先および本学での事務手続きを進めます。 複数校から入学許可を得ている場合は、入学する意志のない大学へ、速やかに入学辞退を伝えること。	① 7月② 12月 ・面接審査 ・派遣学生決定 ※① = 第1期、② = 第2期
----	--	---

↓ 2ヶ月前

6)	渡航準備 留学先が決定したら、渡航準備を始めましょう。 渡航準備にはどんなものがあるか？ ・パスポートおよびビザの申請 ・航空券の手配 ・保険の加入 標準的な1年間の保険料は平均15万円。国や学校によっては、留学生に対し、指定の保険に加入することを義務づけている場合があるので、留学先に確認し、保険の適用範囲や内容に過不足がないようにしましょう。 ・予防接種 国によっては予防接種が必要になります。詳しいことは厚生労働省検疫所 (http://www.forth.go.jp/) を参照のこと。 ・その他、荷物の送付、外貨購入等 ・家族・友人等への、連絡先・連絡方法の伝達 日本についての説明能力は十分か？ 留学生は「小さな外交官」でもあります。歴史、文化等、日本について説明ができるよう準備しましょう。 留学先の国・地方についての予備知識は十分か？ 訪問国について認識を深め、多くの友人を得ることも留学の目的の一つなので、事前に調査・研究を行い、十分な予備知識を持って出かけましょう。	① 7月 & 10月 ② 12月 & 翌5月 ・オリエンテーション参加 ※① = 第1期、② = 第2期
----	---	---

↓

出発

IV 奨学金

1. 学内の奨学金

本学では、留学費用の軽減を図り、できるだけ多くの皆さんが留学等のチャンスを得ることができるよう、以下のような奨学金制度を設けています。詳細は、掲示や国際センターホームページ、G-Portなどで公示しますので、それぞれの募集要項で確認してください。また、独自の奨学金を設けている学部等もありますので、詳細については、所属の学部学科、研究科の事務室にお問合せください。

1) 学習院大学海外留学奨学金

応募条件	「留学願」が承認されている者又は承認されることが見込まれる者 ※「休学」による渡航の場合は応募できない。
奨学金額	1名につき年間40万円以内（給付）
採用予定数	年間延べ80名程度
募集時期	年2回（6月および12月）

2) 学習院大学海外短期研修奨学金 ※2019年度から変更有り

応募条件※	夏季または春季休業中に3週間以上の海外語学研修・短期研修に参加する者 ※在学中1回限り支給の条件を撤廃し、年度内1回限り支給に変更。過去に「海外短期語学研修奨学金」「春季語学研修奨学金」を受給した方も応募可能。
奨学金額	1名につき7万円以内（給付）
採用予定数※	年間170名程度（夏季、春季計）
募集時期※	年2回（9月および2月） ※夏季および春季休業前に募集要項を公示

3) 学習院大学北米をはじめとする英語圏への留学促進奨励金 ※2020年度新設

応募条件	本奨励金が指定する国際センター主催の短期研修（夏季・春季）に参加する者
奨学金額	1名につき10万円以内（給付）
採用予定数	夏季10名・春季10名程度
募集時期	年2回（夏季：7月、春季：2月）

4) 学習院大学語学能力試験受験の助成

応募条件	留学に必要な所定の語学能力試験を受験した者
奨学金額	1名につき1万円以内（給付）（語学試験により異なる）
採用予定数	年間80名程度
募集時期	年2回（7月および1月）

5) 大学院学生の国外における研究発表援助

応募条件	大学院の正規の課程に在籍する者で、国外で開催される研究集会で発表を行う者
奨学金額	1名につき10万円以内（給付）
採用予定数	年間35名程度
募集時期	年1回（4月～翌1月）

2. 学外の奨学金

学外の奨学金は、公的機関や民間団体が独自に設けており、申込みは基本的に学校を通さず個人で行います。留学先の入学許可を得ていることが応募条件になるものや、奨学生に採用されると自動的に留学先が決定するものがあります。

また、国際センターのホームページや掲示板では、学外奨学金の募集情報が入り次第、随時掲載・掲示していますので、ぜひ定期的に確認してください。

公費奨学金

日本政府、地方自治体および外国政府からの奨学金です。

日本学生支援機構（JASSO）<http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

官民協働奨学金

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～ <http://www.tobitate.mext.go.jp/>



採用者の声:国際社会科学部国際社会科学科4年 小栗 弥一郎(2018年4月～9月、ニューサウスウェールズ大学へ協定留学)

私は世界トップレベルコース第7期生として、豪州ニューサウスウェールズ大学へ留学に行きました。大学では自らの専門である国際会計の授業を履修し、現地の学生と肩を並べて大学の授業に参加しました。授業履修の他に、実践活動として財務コンサルティング会社にてインターンを行い、アナリストとして財務分析などを通して座学で学んだことを実践に移しました。それらの経験を通して、さまざまな違いを拒絶せずに一度受け入れることの大切さを学びました。なぜなら、何事でも一度受け入れてみる“ゆとり”を持たないと、自分の価値観から抜け出せず、そこから前に進めないからです。“ゆとり”を持つことで、日本にいただけでは見えない、新たな世界を見ることができるとは思います。これは留学したからこそ得ることができた知見であると思います。

本奨学金制度は金銭的な支援だけでなく、留学前・後に行われる研修を通してコミュニティを形成できるのもまた、大きな魅力です。ぜひとも、国際センターを利用して*飛び立ってほしいと思います。

(※注:「トビタテ！留学 JAPAN」は、国際センターが応募窓口になっています。)

*学生の所属、在籍年次は執筆当時のものです。

民間団体奨学金

各種財団や団体による奨学金です。すべての情報が国際センターに届くわけではありませんが、届いたものについては、当センターホームページや掲示で確認できます。

留学先大学や国による奨学金

留学先の大学や国で、外国人留学生のための奨学金が設けられている場合があります。学部学生での採用はかなり難しいと思われませんが、大学院レベルの学生には、比較的応募しやすい場合もあります。各自で留学先大学や各国の大使館に問い合わせてください。

その他、日本学生支援機構（JASSO）により、以下のような貸与型の奨学金が用意されています。窓口は学生センター学生課です。留学時期に合わせて申込み締切が設けられていますので、希望する場合、早めに学生センター学生課に相談してください。

第二種奨学金（海外）（有利子貸与型）

- ・海外の大学等の正規課程へ進学する者
- ・日本の学校を卒業見込みの在学者および申込時において卒業後3年以内の者

第二種奨学金（短期留学）（有利子貸与型）

- ・海外の短期大学、大学、大学院への短期留学（3ヶ月以上1年以内）する者
- ※ただし、交流協定等に基づく留学、留学先の修得単位が帰国後認定される留学および大学院生の外国の大学院等で研究目的とする留学に限る。

V 語学能力テスト

受験料の助成 (P.24) を行っていますので、活用してください。

1. テストの概要

英語

英語圏への留学には、ほとんどの場合、TOEFLiBT[®] か IELTS[™] (英国留学の場合は UKVI) のスコアが必要です。希望大学の出願条件や、それぞれの試験の違いを過去問題集などで確認し、自分に合ったテストを受験しましょう。

1) TOEFL iBT[®]

受験情報については、下記の HP で確認のこと。

ETS TOEFL Home <http://www.ets.org/jp/toefl>

TOEFL[®] テスト日本事務局 (国際教育交換協議会 (CIEE)) <https://www.toefl-ibt.jp/>

試験形式	Reading、Listening、Speaking、Writing の4セクションで、テスト時間は約3時間。満点は120点 (各セクション30点)。テストセンターでコンピュータを使用し、インターネットを介して回答します。
申込方法・締切	オンラインおよび電話 (通常7日前まで)、郵送 (一番早い受験希望日の4週間前必着)
受験料	235 US ドル (通常申込締切日後の申込手数料40 US ドル) (令和2年3月現在)
受験日・会場	年間約40回程度実施 (主に土・日曜日。1ヶ月に2~5回)。会場は上記 HP で自宅に最寄りの場所を探すことができます。
結果	スコアは、テスト日から約6日後にオンラインで確認できます。公式スコアレポートは試験日から約11日後に米国 ETS から発送されます。
スコアの有効期限	2年間

2) IELTS[™]

受験情報については、下記の HP で確認のこと。

IELTS for UKVI (ブリティッシュ・カウンシル) <https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts-uk-visa-immigration>

IELTS (日本英語検定協会 ※ IELTS[™] の日本における実施団体) <http://www.eiken.or.jp/ielts/>

IELTS (JSAF ※ IELTS[™] の日本における実施団体) <http://www.jsaf-ieltsjapan.com/>

試験形式	Listening (全40問、30分)、Reading (全40問、60分)、Writing (全2問、60分)、Speaking (11~14分) の4セクション。試験結果は1.0~9.0までの0.5刻みのバンドスコアで示されます。
申込方法・締切	それぞれの HP で確認のこと。
受験料	IELTS for UKVI 30,600円 IELTS 25,380円 (令和2年3月現在)
受験日・会場	月2~4回程度 (東京会場の場合) 会場は上記 HP で自宅に最寄りの場所を探すことができます。
結果	通常、筆記試験受験日から13日後にオンラインで確認できます。また、同日に Test Report Form が発行され、その後郵便で手元に届きます。
スコアの有効期限	2年間

フランス語

1) DELF / DALF

フランス国民教育省認定フランス語資格 (ディプロム) で、DELF (A1~B2)、DALF (C1~C2) の6つのレベルがあり、それぞれ筆記試験 (聴解・読解・文書作成) と口頭表現試験があります。国内では年に2回 (春・秋)、実施されています。

2) TCF

フランス国民教育省認定フランス語資格試験で、DELF / DALF 同様、A1~C2の6つのレベルがあります。

日本フランス語試験管理センター <http://www.delfdalf.jp/>

ドイツ語－Goethe-Institut（ゲーテ・インスティテュート）の各検定試験

欧州評議会の定めた語学力評価基準・レベル（A1～C2の6段階）に合わせた各検定試験が用意されています。簡単なドイツ語が理解できるB1レベルの「Zertifikat Deutsch」、それより少し難しいB2レベルの「TestDaF」などがあります。

Goethe-Institut（ゲーテ・インスティテュート） <https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/prf.html>

イタリア語－CILS

イタリア政府認定のイタリア語検定試験で、6つのレベルがあり、それぞれ、聞き取り、文法、読解、作文、会話の5技能を測る内容となっています。イタリア文化会館を通じて、受験できます。

イタリア文化会館 <https://www.iictokyo.com/certi/>

中国語－漢語水平考試（HSK）

中国語圏への留学希望者や、中国語学習者向けの中国政府公認の検定試験。数ある中国語検定の中でも、世界で最も認知されています。聞き取り・読解・作文を内容とする筆記試験（1～6級）と放送内容の要約や朗読を内容とする口答試験（初級、中級、高級）があります。試験結果は、可否に加え、点数で示されます。

HSK <https://www.hskj.jp/>

韓国語－韓国語能力試験

韓国への留学希望者や、韓国語学習者向けの試験で、TOPIK I（1～2級：旧初級）・TOPIK II（3～6級：旧中級＋上級）に分かれており、試験結果により、1～6級の判定がなされます。国内では年に2回（春・秋）、実施されています。

韓国教育財団 <https://www.kref.or.jp/examination>

2. テスト対策

1) TOEFL iBT®・IELTS™ 受験対策支援

国際センターでは、英語による留学の条件の一つである TOEFL iBT®・IELTS™ 試験に向けた参考図書を貸し出している他、TOEFL®テスト攻略コース（e-learningによる講座）およびIELTS™ 対策講座（ネイティブによる講座）を開講しています。また、大学図書館にも、参考図書がありますので、活用してください。

2) 外国語教育研究センターの活用

自由にビデオ・DVD・コンピュータを活用して外国語の学習ができる「外国語自習室」が設けられています。また、語学関連のさまざまな教材や図書（雑誌、Graded Readers等）、機器が用意されており、一部を除き貸し出しも行われています。

3) 学部独自の英語対策講座

学部によって、複数の著名な英会話学校の講座を格安で受講できます。詳細は各学部・学科事務室にお問い合わせください。

4) チャットルームへの参加

国際センターでは協定留学生や私費留学生など外国語のネイティブスピーカーと、彼らと話したい学生を対象にチャットルームを定期的実施しています（試験期間、長期休業期間を除く）。実施予定は国際センターホームページやG-Portでお知らせします。

5) さくらアカデミーの語学関連講座

さくらアカデミーでは、各種資格・語学講座等、英語をはじめ、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、韓国語の講座も開講されています。キャンパス内での開講のため、通いやすい点もお勧めです。

6) 学習院霞会館イングリッシュ・セミナー

8月上旬に開催される、ネイティブ講師による4日間の集中英語講座です。学習院女子大学において開催されていますが、本学の学生も参加することができます。募集要項は6月中旬頃公表されます。

VI 留学情報提供機関

1. 国際センター

留学しようと思ったとき、まず窓口となるのが国際センターです。

場所	中央教育研究棟 2 F
開室時間	月～金曜日 8:40～16:45 土曜日 8:40～12:30
掲示板	国際センター外廊下
ホームページ	https://www.univ.gakushuin.ac.jp/global/ 協定留学プログラムや学内外奨学金の各募集案内、イベントの情報などは、ホームページでもお知らせしていますので、留学を考えている人は定期的にチェックしてください。留学や外国人留学生のための情報を始め、協定校のホームページや役に立つサイトへのアクセスもできるようになっています。

当センターでは、以下のようなサービスを行っています。

留学相談	留学・研修・交流等に関する質問・相談への対応（予約不要です）
情報提供	<ul style="list-style-type: none">・協定校および協定留学プログラムに関する情報・留学・海外研修に関する情報・国際交流に関する情報
主催行事	<ul style="list-style-type: none">・留学希望者オリエンテーション：毎年4月、新入生を対象に、国際センターの紹介、本学の海外留学制度、留学に関する基本的な情報についての説明会を行っています。・留学説明会：協定留学プログラムや海外短期研修に関する説明会を年に複数回開催しています。・留学フェア：留学希望者、留学経験者が交流できる場として、春と秋に開催しています。
学内交流	<ul style="list-style-type: none">・国際センターボランティアの募集：国際交流行事の手伝いや協定留学生のパディ等に参加できますので、学内における国際交流の場として、留学希望者は積極的に参加してください。・チャットルームの開催：外国語をアウトプットする場として、留学生を交えて話す機会を定期的に提供しています。留学経験者だけでなく、語学に興味のある方であれば誰でも自由に参加できます（試験期間・長期休業期間を除く）。・外国人留学生パディ・留学生ホームステイ事業、ホストファミリーの募集

2. 学外の機関

以下で紹介するのは、安心して利用できる公的機関です。ホームページはそれぞれ情報が充実しており、留学についての概要が掴めるようになっています。

なお、上記の国際センターHPからも、各機関のHPへのリンクが参照できます。

1) 留学に関する総合情報

日本学生支援機構（JASSO）「海外留学支援サイト」<http://ryugaku.jasso.go.jp/>

留学について考え始めたら、このサイトをチェックしましょう。

留学計画や準備についての指南、公的機関の奨学金情報、各国への留学の手引きなど、留学についての基本情報が網羅されています。

ガイドブック「私がつくる海外留学」<http://ryugaku.jasso.go.jp/publication/guidebook/>

海外留学よくあるご質問 <http://ryugaku.jasso.go.jp/faq/>

海外留学のための奨学金 <http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

2) 国別留学情報

国名	情報提供機関	URL
各国	文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」	https://www.tobitate.mext.go.jp/univ/
アメリカ	日米教育委員会 「Education USA」	https://www.fulbright.jp/study/
イギリス	ブリティッシュ・カウンシル 「Study UK: Discover You」	https://study-uk.britishcouncil.org/
ドイツ	ドイツ学術交流会本部 (DAAD)	https://tokyo.daad.jp/ja/study-in-germany/
フランス	Campus France (フランス政府留学局) 日本支局	https://www.japon.campusfrance.org/
イタリア	イタリア文化会館 東京 「Study in Italy」	https://studyinitaly.jp/
エストニア	「Study in Estonia」	http://www.studyinestonia.ee/en
中国	中華人民共和国駐日本国大使館 「教育と留学生交流」	https://www.china-embassy.or.jp/jpn/jyylxsjl/
台湾	台湾教育省「Study in Taiwan」	https://www.studyintaiwan.org/
韓国	Ministry of Foreign Affairs Republic of Korea	http://www.mofa.go.kr/eng/wpge/m_5719/contents.do
オーストラリア	「Study in Australia」	https://www.studyinaustralia.gov.au/japanese/japan
ニュージーランド	Education New Zealand	https://www.studyinnewzealand.govt.nz/jp/

3. その他

1) 外務省「海外安全ホームページ」

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

国別・地域別の最新スポット情報・危険情報（渡航情報）、安全対策基礎データ（犯罪事情、風俗・習慣、査証・出入国審査、滞在時の留意事項、健康、緊急時の連絡先など）。国・地域の別を問わず、海外旅行にあたっての注意や感染症の情報も見ることができます。

2) 外務省「各国・地域情勢」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/>

各国の地理的な統計情報から政治、経済、日本との関係など、当該国の網羅的な情報を知ることができます。

3) 厚生労働省検疫所「海外旅行者のための感染症情報」

<http://www.forth.go.jp/>

病気予防のための注意、国・地域別の感染症別情報、予防接種情報など、旅行前・旅行中・旅行後にわたっての参考情報を紹介。

VII 渡航後の注意

1. 外務省による渡航登録サービス

1) 在留届

旅券法第 16 条により、外国に住所を定めて 3 ヶ月以上滞在する場合は、現地の在外公館（日本大使館、領事館等）に「在留届」を提出するよう義務づけられています。

在外公館は、「在留届」により該当者が現地に居住していることを把握しています。「在留届」が提出されていれば、大災害や事件、事故が起きた時の安否確認や留守宅への連絡が迅速に行えます。

なお、事故がない場合でも、家族等への定期的な連絡を心がけてください。

提出時期	現地に到着後、実際にその場所に居住し始めてから
提出方法	・ ORR Net インターネットによる提出 (https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/) ・ 「在留届」の用紙を現地の在外公館へ持参、郵送又はファックス
用紙の入手先	都道府県旅券窓口、留学先の管轄在外公館、 ダウンロード (http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu/image/zairyu.pdf)

2) たびレジ

3 ヶ月未満の渡航を予定している場合は、外務省海外旅行登録「たびレジ」に登録してください。登録は任意ですが、登録すると、旅行先在外公館の連絡先や、旅行先国の渡航情報が見られたり、在外公館が出す緊急一斉通報や、最新渡航情報メールを受け取ったりすることができます。また、旅行先の国・地域で緊急事態が発生した時には、登録した電話番号や、宿泊先を基に、緊急時の連絡が行われます。

登録時期	パスポート番号や旅行日程が決まってから。海外から登録することも可能。
登録方法	https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/

2. 安全対策

前述の、外務省「海外安全ホームページ」(<http://www.anzen.mofa.go.jp/>)にて、国別・地域別の最新スポット情報・危険情報、安全対策基礎データを見ることができます。

具体的な事例で気をつけるポイントを学べる、動画コンテンツ「海外安全劇場」、事例集「海外邦人事件簿」などがおすすめです。

また、次ページに「協定留学プログラム」の派遣前オリエンテーションで使用している「派遣学生の手引き」から、留学中の 5 大原則を転載します。安全対策は、「完璧」などということはありません。留学先で必ずしも危険な目に遭うとは限りませんが、常に安全対策を念頭に、責任ある行動をとり、実りある留学期間を送ってください。

なお、国際センターでは協定留学、協定外留学（国際社会科学部を除く）、国際センター主催の短期研修等による派遣学生を危機管理システムである OSSMA に加入させ、海外滞在時の安全管理を行っています（加入料は自己負担となりますが、休学による渡航者にも案内しています）。

「自己防衛」という姿勢を徹底する

誰かが自分の身の安全を保障してくれるということはありません。「自分の身は自分で守る」が原則です。

例えば、夜間1人で歩かない、部屋のドアをロックされても、相手が誰か確認するまでは不用意に開けないなど（相手が気を悪くするのではないかなどといった気遣いは一切無用です）、自ら招く危険は最小限におさえるように注意することです。「自分だけは大丈夫」という根拠のない自信は捨て、クールに行動してください。

絶えず緊張感を持つ

外出時には絶えず緊張感を忘れず、人気がない所ではもちろん、特に人ごみでは、隙を見せ標的にならないよう、気をつけてください。

日本では見知らぬ人同士がすれ違う時に身体がぶつかり合うような場面はよく見られますが、海外では、見知らぬ人が接近してくる場合、思わぬ犯罪に巻き込まれる危険性もあります。相手の行動に敏感になりましょう。

情報収集に努める

現地の人が当たり前と思っている情報、例えば、昼間でも危険なので1人出歩いてはいけない地域や場所についてなど、外国人は知らない場合があります。

このような情報から取り残されることがないように、どんな小さなことでも、現地の人や現地に詳しい日本人に、臆せず聞いてください。何か起きてから人を責めても、「知っていると思った」と言い捨てられるのが関の山です。

友人や地域の人々と良い関係を持ち、新聞やテレビからの情報収集も積極的に行いましょう。

郷に入っては郷に従え

留学先では周りの人々の行動や習慣をよく観察し、現地の人々と同じように行動するようにしましょう。例えば、現地の人々と同じ時間帯に行動したり、現地の人が近づかないところには近づかないなど、湧き上がる好奇心に流されないようにすることが大切です。また、服装や行動なども現地の学生に合わせ、現地の人々に溶け込んだ生活を送ることが肝要です。

自分自身を客観的に見る目を持つ

犯罪者の目線で自分自身を観察してください。

相手に隙を見せる格好をしていないか、現地の人があまり持っていないような高価なブランド物や年齢不相応な持ち物を持っていないか、髪型や化粧、服装は華美で挑発的ではないか、お金の使い方が派手だったり、必要以上にお金を持っていたりしないかなど、もしあなたが犯罪者なら、あなたのどこを狙うか、チェックしてみてください。犯罪者から目をつけられにくい行動、服装を心がけましょう。

VIII 帰国後のブラッシュアップ

留学経験を風化させず、今後活かしていくことが、真に留学を成功させたと言えます。以下のような点を参考に留学経験をブラッシュアップしてください。

- ・ 留学経験の総括—留学の目的と達成度、留学先で得たもの等を基に振り返りを行い、自分なりの留学経験の活かし方を考えましょう。
- ・ 語学力の継続—語学能力試験にチャレンジするなど手段を工夫し、留学で身に付けた語学力にさらに磨きをかけましょう。
- ・ 異文化体験の活用—留学経験で養った異文化コミュニケーション能力を活かし、例えばボランティア活動等にチャレンジしましょう。
- ・ 学内の語学対策講座や国際センターで実施しているチャットルーム等（P.30）も活用してください。

IX 直近5カ年の留学者数

1)、2) は学籍上の留学

1) 学部・研究科別留学者数

学部	学科		年度					合計	
			'15	'16	'17	'18	'19		
法	法		0	2	2	2	4	10	
	政治		7	5	6	6	6	30	
経	経済		3	3	3	1	1	11	
	経営		3	6	3	4	4	20	
文	哲学		1	0	0	2	1	4	
	史学		6	1	1	1	1	10	
	日本語日本文		0	0	0	1	1	2	
	英語英米文化		9	8	10	4	3	34	
	ドイツ語圏文化		5	2	10	8	4	29	
	フランス語圏文化		4	4	3	5	10	26	
	心理		0	1	0	0	1	2	
	教育		0	0	0	1	0	1	
	理	物理		0	0	0	0	0	0
		化学		0	0	0	0	0	0
数学			0	0	0	0	0	0	
生命科学			0	0	0	0	0	0	
国	国際社会科学		-	0	70	106	98	274	
小計			38	32	108	141	134	453	

研究科	専攻		年度					合計
			'15	'16	'17	'18	'19	
人文科学	法	法律学	0	0	0	0	0	0
	政	政治学	1	1	0	1	1	3
	済	経済学	0	0	0	0	0	0
	営	経営学	0	0	0	0	0	0
		哲学	0	1	0	0	0	1
		美術史学	0	0	0	0	0	0
		史学	1	0	0	0	0	1
		日本語日本文学	0	0	0	0	0	0
		英語英米文学	0	0	0	0	1	1
		ドイツ語ドイツ文学	1	0	0	1	0	2
		フランス文学	0	0	0	1	1	2
		心理学	0	0	0	0	0	0
		臨床心理学	0	0	0	0	0	0
		教育学	0	0	0	0	0	0
自然科学		アーカイブズ学	0	1	0	0	0	1
		身体表象文化学	0	0	0	0	0	0
		物理学	0	0	0	0	0	0
		化学	0	0	0	0	0	0
		数学	0	0	0	0	0	0
	生命科学	0	0	0	0	0	0	
小計			3	3	0	3	2	11

合計			41	35	108	144	136	464
----	--	--	----	----	-----	-----	-----	-----

2) 国別留学者数

国名	年度	'15	'16	'17	'18	'19	合計
韓国		0	2	5	5	3	15
中国		1	2	1	7	5	16
台湾		0	1	5	6	6	18
タイ		-	-	1	1	1	3
フィリピン		-	-	1	0	2	3
マレーシア		-	-	-	-	2	2
オーストラリア		5	3	10	20	16	54
ニュージーランド		2	1	2	1	2	8
カナダ		3	0	9	20	16	48
アメリカ		6	10	40	38	44	138
アイスランド		2	0	0	0	0	2
イギリス		8	6	13	13	9	49
アイルランド		-	-	2	6	7	15
ドイツ		6	4	9	11	5	35
フランス		5	4	5	6	11	31
イタリア		2	1	3	3	2	11
オーストリア		0	1	1	1	1	4
スペイン		1	0	0	3	2	6
エストニア		0	0	1	1	2	4
デンマーク		-	-	-	1	0	1
ヨルダン		-	-	-	1	0	1
合計		41	35	108	144	136	464

※ 同一留学先へ1年を超えて留学している者については、2年目以降は含めない。

3) 渡航先国別「海外短期語学研修奨学金」(P.27) 受給者数

国名	年度	'15	'16	'17	'18	'19
韓国		0	-	-	-	0
中国		0	-	1	0	-
台湾		0	1	1	0	-
フィリピン		3	-	-	-	0
インド		0	-	-	-	-
シンガポール		0	-	-	-	-
マレーシア		0	-	-	-	-
オーストラリア		0	-	-	1	-
ニュージーランド		0	-	-	4	-
カナダ		2	-	-	-	-
アメリカ		1	-	-	-	-
イギリス		28	12	14	-	12
アイルランド		3	-	-	-	3
ドイツ		28	25	24	11	26
エストニア		-	5	7	4	7
フランス		2	1	4	8	-
オーストリア		0	-	2	8	-
マルタ		0	-	-	0	-
スペイン		0	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
合計		67	44	53	36	48

※ 本奨学金は2016年度より制度が変更されました。また、2020年度より制度を変更予定です (P.27 参照)。

表紙写真：南フランス アヴィニョンのラベンダー畑（フランス・アヴィニョン）
（撮影：文学部フランス語圏文化学科 山下 真理子（2018年10月～翌年9月、リヨン政治学院へ協定留学））